

## 6. 投資信託に関する認知・接触状況(全体)

### (1) 投資信託の認知状況

投資信託については、「よく知っている」が3.7%、「大体は知っている」が21.3%であり、これらを合わせた“認知率”は25.0%である。一方、「言葉だけは知っている」が68.3%と過半数を占め、「言葉も知らなかった」は6.7%と少ない。

時系列では、今回から「大体は知っている」を加えたことにより厳密には比較できないため、前回以前のデータは参考までに提示するにとどめる。

対象者属性別でみると、性別では、男性の方が“認知率”が高い。

年代別では、“認知率”は年代が上がるにつれ高くなっている。70歳以上の“認知率”は半数近く(44.0%)にのぼり、このうち「よく知っている」も9.5%みられる。一方、20代では“認知率”は10%に満たず、「言葉も知らなかった」が19.6%と、他の年齢層に比べて特に高い。

年収別では、“認知率”は年収が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別では大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、“認知率”は保有未経験層では、購入意向層でも3人に1人(34.4%)が知っている程度であり、非購入意向層では10.6%に過ぎない。

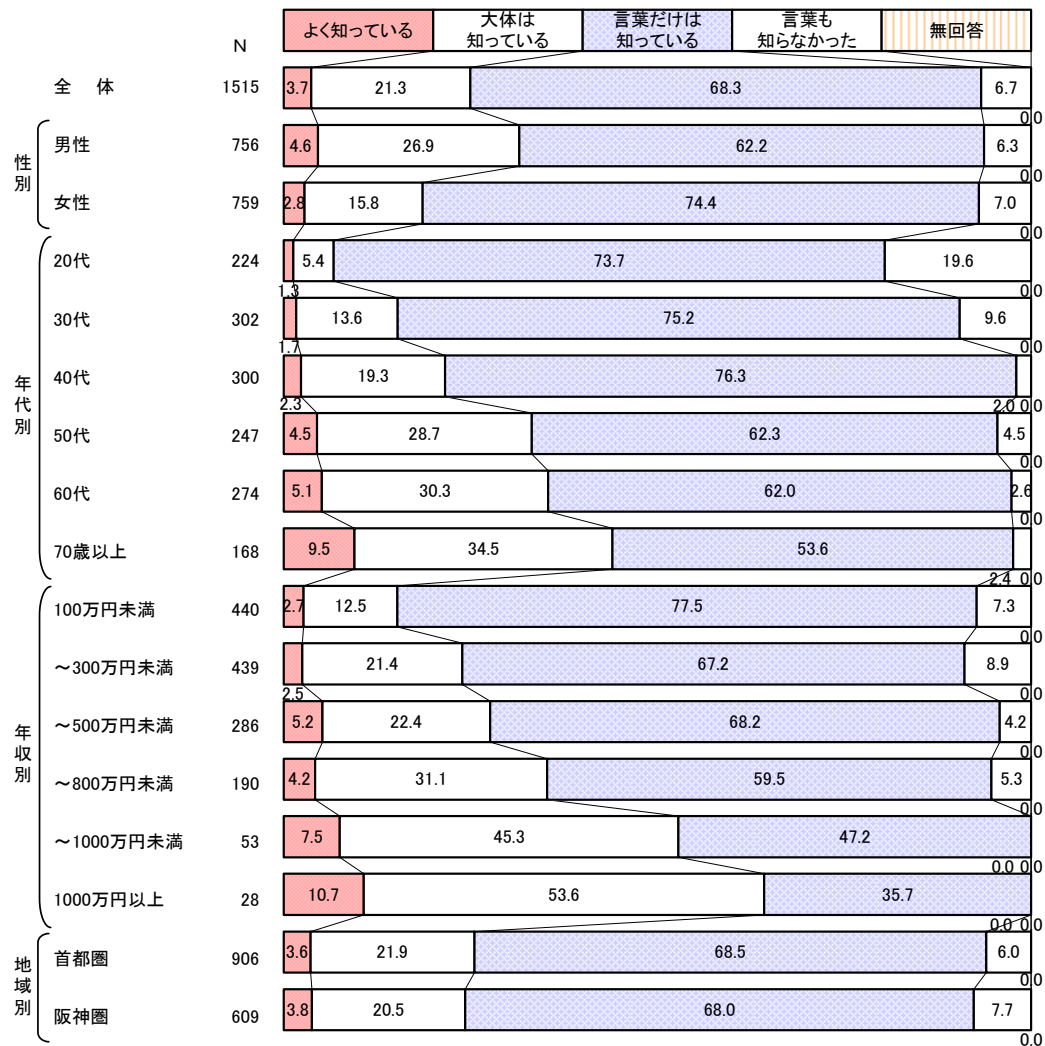
#### 問1【投資信託の認知状況(単数回答)／時系列】

	N	よく知っている	大体は知っている	言葉だけは知っている	言葉も知らなかった	無回答
平成25年	1515	3.7	21.3	68.3	6.7	0.0
平成23年	1509	13.8	-	78.7	-	7.4
平成22年	1514	12.7	-	79.7	-	7.5
平成20年	1507	13.4	-	80.4	-	6.2
平成19年	1517	14.0	-	81.7	-	4.3

※ 平成25年より「大体は知っている」を追加。

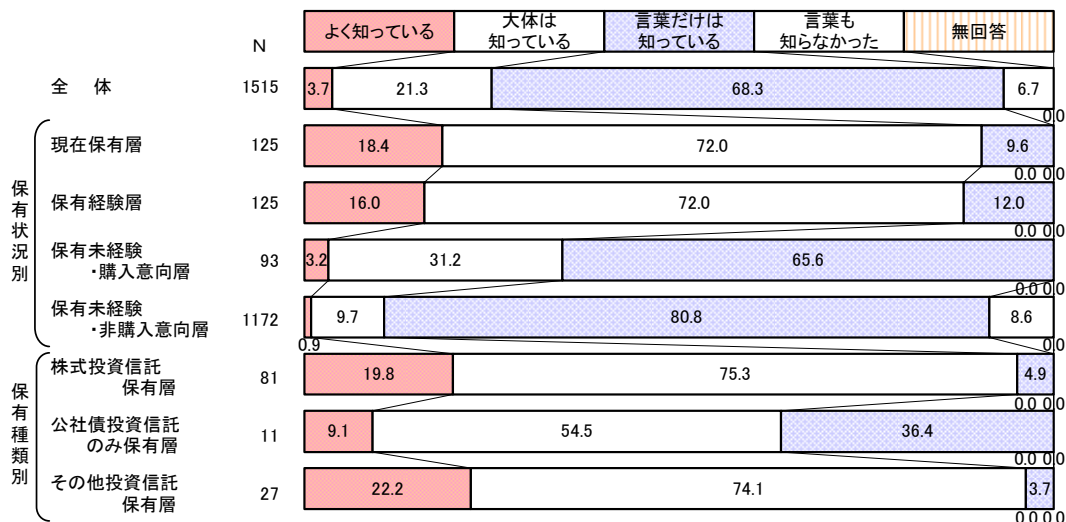
問1【投資信託の認知状況(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問1【投資信託の認知状況(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



## (2) 投資信託のイメージ

投資信託に対するイメージとしては、「仕組みがわかりにくい」(41.3%)と「元本割れが怖い」(36.4%)が特に高く、これら2つが主なイメージとなっている。次いで、「用語がわかりにくい」(18.9%)、「投資の上級者向けである」(11.1%)の順に続く。「わからない・特にない」も29.8%みられ、具体的なイメージができない人も多い。

時系列でみると、具体的なイメージには大きな変化はないものの、具体的なイメージができない「わからない・特にない」は低下傾向がみられる。

対象者属性別についてみると、性別では、女性は男性に比べ「仕組みがわかりにくい」「元本割れが怖い」「用語がわかりにくい」といったマイナスイメージが高い。男性は「投資の初心者向けである」が女性より高い。

年代別では、「仕組みがわかりにくい」は30代以上で年代が上がるにつれ低くなる傾向がみられる。「元本割れが怖い」は20代では19.2%と特に低く、年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。この結果、若年層では「仕組みがわかりにくい」が「元本割れが怖い」を上回っているが、60代以上では「元本割れが怖い」の方が高い。「わからない・特にない」は年代が低いほど高くなる傾向がみられ、20代では半数近く(44.6%)を占める。若年層にはまず投資信託の基礎知識を浸透させることが重要といえる。

年収別にみると、「～1000万円未満」の高年収層では「仕組みがわかりにくい」や「わからない・特にない」率は低いが、「元本割れが怖い」や「投資の初心者向けである」イメージがやや高い。一方、「投資の上級者向けである」イメージは「～800万円未満」の層でやや高いが、「～1000万円未満」の層ではやや低く、両者の投資信託への心理的な距離の違いがうかがえる。

地域別では大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、現在保有層や保有経験層は「元本割れが怖い」がいずれも最も高く、「仕組みがわかりにくい」を大きく上回っている。これらの層は他にも「長期運用に向いている」「投資の初心者向けである」「気軽に始められる」などのイメージが高く、心理的な近さがうかがえるが、いずれも現在保有層の方が保有経験層より高い。一方、保有未経験層では「仕組みがわかりにくい」が最も高く、知識を持たないことが購入の大きなハードルとなっているようである。非購入意向層では「わからない・特にない」が36.1%と他の層に比べ特に高い。保有未経験ながらも購入意向層では、「用語がわかりにくい」「投資の上級者向けである」が他の層に比べて高く、積極的な情報提供が心理的な距離を縮めるのに役立つとみられる。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層はその他投資信託保有層と比べて、「気軽に始められる」イメージが高い。

問 30 【投資信託のイメージ(重複回答)／時系列】

	N	仕組みがわかりにくい	元本割れが怖い	用語がわかりにくい	投資の上級者向けである	長期運用に向いている	投資の初心者向けである	気軽に始められる	仕組みがわかりやすい	その他	わからない・特にない	無回答
平成25年	1515	41.3	36.4	18.9	11.1	7.8	7.5	4.6	2.3	1.3	29.8	0.1
平成23年	1509	37.6	33.5	18.4	9.7	8.0	6.1	3.4	2.8	1.1	34.1	0.3
平成22年	1514	40.7	32.5	18.6	8.7	10.3	5.9	3.9	3.8	0.9	37.8	0.1

問 30 【投資信託のイメージ(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	仕組みが わかりにくい	元本割れが 怖い	用語が わかりにくい	投資の 上級者向け である	長期運用に 向いている	投資の 初心者向け である	気軽に 始められる	仕組みが わかりやすい	その他	わからない ・特になし	無回答
全体	1515	41.3	36.4	18.9	11.1	7.8	7.5	4.6	2.3	1.3	29.8	0.1
性別												
男性	756	37.3	33.7	16.1	11.1	9.7	10.3	6.0	2.2	1.7	28.7	0.1
女性	759	45.2	39.1	21.6	11.1	5.9	4.7	3.2	2.4	0.8	30.8	0.0
年代別												
20代	224	41.5	19.2	23.2	10.3	3.6	3.1	2.2	0.9	0.4	44.6	0.0
30代	302	45.0	32.5	20.5	11.6	6.3	5.3	3.0	2.0	1.3	32.1	0.3
40代	300	43.0	39.0	20.3	13.7	6.7	7.0	3.7	1.3	1.0	28.0	0.0
50代	247	40.9	41.7	16.6	11.3	10.5	10.5	4.5	3.6	2.0	23.5	0.0
60代	274	39.1	44.5	15.3	8.8	10.9	8.0	6.6	2.2	1.8	24.5	0.0
70歳以上	168	35.1	41.1	16.7	10.1	8.9	13.1	8.9	4.8	0.6	26.8	0.0
年収別												
100万円未満	440	44.1	35.9	23.6	11.4	4.5	4.5	3.6	1.6	1.1	33.0	0.0
～300万円未満	439	41.0	35.1	18.7	9.1	7.7	7.3	3.4	1.8	1.4	31.2	0.0
～500万円未満	286	38.5	36.4	16.8	11.5	6.3	7.0	5.2	3.1	1.7	30.8	0.0
～800万円未満	190	43.7	40.0	16.8	17.4	12.1	13.2	7.4	1.6	0.0	23.2	0.0
～1000万円未満	53	32.1	43.4	11.3	5.7	13.2	20.8	9.4	7.5	0.0	13.2	0.0
1000万円以上	28	21.4	35.7	17.9	7.1	39.3	14.3	0.0	7.1	7.1	17.9	0.0
地域別												
首都圏	906	42.1	36.0	20.2	10.4	9.1	7.8	4.1	2.3	1.3	29.5	0.1
阪神圏	609	40.1	37.1	16.9	12.2	5.9	7.1	5.3	2.3	1.1	30.2	0.0

問 30 【投資信託のイメージ(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	仕組みが わかりにくい	元本割れが 怖い	用語が わかりにくい	投資の 上級者向け である	長期運用に 向いている	投資の 初心者向け である	気軽に 始められる	仕組みが わかりやすい	その他	わからない ・特になし	無回答
全体	1515	41.3	36.4	18.9	11.1	7.8	7.5	4.6	2.3	1.3	29.8	0.1
保有状況別												
現在保有層	125	31.2	53.6	19.2	8.8	28.8	28.8	24.0	7.2	1.6	4.8	0.0
保有経験層	125	27.2	60.0	16.0	8.8	18.4	20.0	17.6	4.0	2.4	8.8	0.0
保有未経験 ・購入意向層	93	48.4	43.0	28.0	23.7	22.6	16.1	4.3	2.2	1.1	11.8	0.0
保有未経験 ・非購入意向層	1172	43.3	31.6	18.4	10.6	3.2	3.2	1.1	1.6	1.1	36.1	0.1
保有種類別												
株式投資信託 保有層	81	29.6	53.1	17.3	8.6	32.1	27.2	28.4	8.6	2.5	4.9	0.0
公社債投資信託 のみ保有層	11	18.2	63.6	9.1	18.2	9.1	45.5	18.2	9.1	0.0	9.1	0.0
その他投資信託 保有層	27	37.0	55.6	29.6	7.4	29.6	33.3	14.8	3.7	0.0	0.0	0.0

### (3) 投資信託の商品特徴認知状況

投資信託の特徴として知っているものを答えてもらったところ、「元本の保証はない」が46.5%で特に高い。以下、「銀行等の金融機関でも購入できる」「リスクとリターンは相互関係にある」「価格変動があり、外国投資には為替リスクがある」「国内の投資信託と海外の投資信託がある」が20%台で続き、「投資信託会社が運用している」と「MRF・MMF・中期国債ファンドは投資信託商品」は約15%が認知しているが、これら以外の項目の認知率は10%に満たない。なお、「知っているものは特にない」が38.2%みられ、ほぼ3人に1人が商品特徴を全く知らない状況である。

時系列でみると、平成22年以降「知っているものは特にない」には低下傾向がみられ、少しずつ知識の普及がされてきている様子がうかがえる。

対象者属性別については、性別では、女性の方が「知っているものは特にない」が高く、その他の項目は男性の方が認知率がやや高い。

年代別では、20代は「知っているものは特にない」が過半数(61.6%)と特に高く、全般的に若年層ほど認知率が低い項目が多い。50代は「価格変動があり、外国投資には為替リスクがある」と「MRF・MMF・中期国債ファンドは投資信託商品」の認知率が他の層より高く、全体的に50代を山型として高くなる傾向がみられる。

年収別でみると、年収が高いほど認知率が高くなる項目が多く、「元本の保証はない」は「～1000万円未満」の層では71.7%にのぼる。一方、「知っているものは特にない」は“300万円未満”の低年収層では40%台と高いのに対し、「～1000万円未満」では11.3%に過ぎない。

地域別では、阪神圏は首都圏より「銀行等の金融機関でも購入できる」の認知率が高い。

投資信託保有状況別にみると、多くの項目で現在保有層の認知率が最も高く、保有経験層、保有未経験・購入意向層、保有未経験・非購入意向層の順に続いている。現在保有層では上位4項目の認知率はほぼ70%以上であり、多様な点が理解されている。ただし、「リスクとリターンは相互関係にある」の認知率は現在保有層でも56.8%となっており、保有経験層の認知率(41.6%)が保有未経験・購入意向層(50.5%)を下回る。保有未経験・非購入意向層では「知っているものは特にない」がほぼ半数(47.6%)を占め、知識量は少ない。

問31【投資信託の商品特徴認知状況(重複回答)／時系列】

	N	元本の保証はない	銀行等の金融機関でも購入できる	リスクとリターンは相互関係にある	価格変動があり、外国投資には為替リスクがある	国内の投信と海外の投信がある	投資信託会社が運用している	MRF・MMF・中国Fは投資商品	基準価額は新聞や投信会社HPで閲覧可	手数料とは別に信託報酬がかかる	日本に投信の評価を行う会社がある	信託財産は分別保管されている	知っているものは特にない	無回答
平成25年	1515	46.5	29.8	26.1	25.5	23.2	16.8	14.7	9.8	8.6	5.1	4.8	38.2	0.4
平成23年	1509	44.0	26.6	24.4	26.1	26.2	15.3	18.4	9.0	8.0	4.7	4.6	42.3	0.3
平成22年	1514	40.0	26.0	21.9	22.5	21.7	15.1	16.6	8.6	6.5	4.4	4.9	45.9	0.1
平成20年	1507	45.9	34.9	25.7	28.3	31.4	18.0	21.1	10.9	9.3	5.6	4.0	38.0	0.2
平成19年	1517	45.6	38.9	25.2	26.4	31.0	18.5	21.0	11.5	9.4	4.7	5.8	36.5	0.1

問 31 【投資信託の商品特徴認知状況(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	元本の保証はない	銀行等の金融機関でも購入できる	リスクとリターンは相互関係にある	価格変動があり、外国投資には為替リスクがある	国内の投信と海外の投信がある	投資信託会社が運用している	MRF・MMF・中国Fは投信商品	基準価額は新聞や投信会社HPで閲覧可	手数料とは別に信託報酬がかかる	日本に投信の評価を行う会社がある	信託財産は分別保管されている	知っているものは特になし	無回答	
全体	1515	46.5	29.8	26.1	25.5	23.2	16.8	14.7	9.8	8.6	5.1	4.8	38.2	0.4	
性別	男性	756	51.2	31.7	32.3	29.2	26.2	20.8	16.5	11.8	10.4	6.9	6.7	32.8	0.5
	女性	759	41.8	27.8	19.9	21.9	20.3	12.8	12.9	7.9	6.9	3.3	2.8	43.5	0.3
年代別	20代	224	21.0	10.7	18.8	11.2	12.5	8.0	5.4	3.6	4.9	2.7	1.3	61.6	0.9
	30代	302	36.1	23.5	26.2	22.2	17.5	12.9	7.3	8.3	7.0	3.3	4.3	44.4	0.7
	40代	300	48.7	28.7	27.7	25.3	23.3	17.0	14.7	11.0	5.3	5.7	3.3	38.0	0.0
	50代	247	57.5	39.3	30.4	35.6	30.8	21.9	28.3	15.0	12.6	6.9	6.9	25.5	0.4
	60代	274	59.1	37.6	28.5	28.1	27.7	19.3	18.2	10.2	11.7	5.5	5.8	29.6	0.4
	70歳以上	168	58.3	41.7	22.6	32.1	29.2	23.2	14.9	10.7	11.9	7.1	7.7	28.6	0.0
	年収別	100万円未満	440	38.9	25.7	19.3	19.3	19.1	12.7	13.0	6.4	5.2	3.0	2.5	45.0
～300万円未満	439	44.0	28.7	22.6	22.1	19.8	14.6	12.1	8.4	8.7	4.3	3.6	42.8	0.7	
～500万円未満	286	48.6	31.1	32.2	25.9	21.7	17.8	15.7	11.5	7.7	5.6	6.3	35.0	0.3	
～800万円未満	190	53.2	33.2	32.6	34.7	30.0	24.2	17.9	12.6	12.1	4.7	5.3	29.5	0.0	
～1000万円未満	53	71.7	52.8	49.1	54.7	47.2	30.2	26.4	20.8	24.5	15.1	13.2	11.3	0.0	
1000万円以上	28	92.9	46.4	57.1	57.1	64.3	39.3	39.3	32.1	25.0	25.0	21.4	7.1	0.0	
地域別	首都圏	906	46.7	27.9	26.0	25.9	24.0	16.9	14.5	9.9	8.6	5.2	4.9	36.5	0.7
	阪神圏	609	46.1	32.5	26.1	25.0	22.2	16.6	15.1	9.7	8.7	4.9	4.6	40.6	0.0

問 31 【投資信託の商品特徴認知状況(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	元本の保証はない	銀行等の金融機関でも購入できる	リスクとリターンは相互関係にある	価格変動があり、外国投資には為替リスクがある	国内の投信と海外の投信がある	投資信託会社が運用している	MRF・MMF・中国Fは投信商品	基準価額は新聞や投信会社HPで閲覧可	手数料とは別に信託報酬がかかる	日本に投信の評価を行う会社がある	信託財産は分別保管されている	知っているものは特になし	無回答	
全体	1515	46.5	29.8	26.1	25.5	23.2	16.8	14.7	9.8	8.6	5.1	4.8	38.2	0.4	
保有状況別	現在保有層	125	92.0	69.6	56.8	76.0	69.6	48.0	49.6	45.6	44.0	28.0	20.0	2.4	0.0
	保有経験層	125	84.0	70.4	41.6	52.8	48.8	32.8	37.6	19.2	23.2	12.0	11.2	4.0	0.0
	保有未経験・購入意向層	93	62.4	53.8	50.5	39.8	38.7	26.9	19.4	15.1	14.0	3.2	6.5	12.9	0.0
	保有未経験・非購入意向層	1172	36.3	19.3	19.2	16.1	14.3	10.9	8.2	4.6	2.9	2.0	2.3	47.6	0.5
	保有種類別	株式投資信託保有層	81	93.8	74.1	60.5	80.2	74.1	46.9	53.1	50.6	45.7	29.6	19.8	1.2
公社債投資信託のみ保有層		11	72.7	72.7	45.5	45.5	54.5	54.5	54.5	36.4	45.5	27.3	45.5	9.1	0.0
その他投資信託保有層		27	100.0	63.0	51.9	85.2	77.8	59.3	44.4	44.4	44.4	25.9	14.8	0.0	0.0



#### (4) 投資信託について入手したい情報

投資信託について入手したい情報としては、「基準価額」(36.5%)と「分配金の額」(35.7%)が最も高く、これら2つへの要望が特に高い。以下、「騰落率」(22.5%)、「販売手数料率・額」(20.8%)の順に続く。

時系列では、今回「特にない・わからない」を削除したため、厳密には比較できないが、前回までと比べると、「基準価額」と「分配金の額」への要望が他の項目より高いことがわかる。

対象者属性別にみると、性別では大きな差はみられない。

年代別では、上位項目では40～50代を中心とした山型となっており、20代や70歳以上では低い項目が多い。

年収別では、多くの項目では“500万円未満”の層では大きな差はみられないが、「～800万円未満」の層で比率が上がり、「～1000万円未満」ではさらに比率が上がっており、高年収層ほど多様な情報を欲していることがわかる。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、多くの項目で、現在保有層が最も高く、次いで保有経験層と保有未経験・購入意向層が同レベル、最も低いのが保有未経験・非購入意向層となっている。ただし、「基準価額」「販売手数料率・額」「信託報酬率・額」「信託期間」は保有経験層より保有未経験・購入意向層の方がやや高く、購入意向層はより具体的な情報を欲している様子がうかがえる。なお、現在保有層が入手したい情報は「分配金の額」が最も高く、その他「純資産残高」「設定年月日」「信託財産留保金のあるなし」が他の層を大きく上回っている。

投資信託保有種類別にみると、株式投資信託保有層はその他投資信託保有層と比べて「販売手数料率・額」「信託報酬率・額」が高い。

#### 問 32 【投資信託について入手したい情報(重複回答)／時系列】

	N	基準価額	分配金の額	騰落率	販売手数料率・額	信託報酬率・額	決算頻度	純資産残高	信託期間	設定年月日	信託財産留保金のあるなし	特にない・よくわからない	その他	無回答
平成25年	1515	36.5	35.7	22.5	20.8	14.7	13.3	12.8	12.3	5.0	5.0	-	23.8	10.0
平成23年	1509	14.2	15.0	12.1	11.2	8.0	8.5	8.0	6.4	3.4	3.4	73.8	0.7	0.3
平成22年	1514	13.8	14.7	10.3	9.1	6.9	6.8	6.9	5.2	2.4	2.2	74.4	0.8	0.3

※ 平成25年より「特にない・よくわからない」を削除。

問 32 【投資信託について入手したい情報(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

	N	基準価額	分配金の額	騰落率	販売手数料率・額	信託報酬率・額	決算頻度	純資産残高	信託期間	設定年月日	信託財産留保金のあるなし	その他	無回答
全体	1515	36.5	35.7	22.5	20.8	14.7	13.3	12.8	12.3	5.0	5.0	23.8	10.0
性別													
男性	756	38.2	37.3	23.4	20.5	16.4	11.4	14.0	13.8	4.5	5.0	20.5	10.4
女性	759	34.8	34.1	21.6	21.1	13.0	15.2	11.6	10.9	5.5	5.0	27.1	9.5
年代別													
20代	224	41.1	32.1	17.4	14.3	8.5	12.1	7.1	8.0	3.6	2.7	22.8	8.5
30代	302	36.4	39.4	22.2	20.5	15.9	11.6	9.3	9.6	3.6	3.3	21.2	7.6
40代	300	40.3	35.7	28.0	23.7	21.7	13.7	12.3	14.7	4.7	7.0	22.0	6.0
50代	247	41.7	39.7	26.3	28.3	18.2	16.2	20.2	14.6	9.3	6.9	23.5	8.5
60代	274	31.4	35.4	20.8	21.2	12.4	14.2	14.2	13.1	4.4	4.7	24.5	15.3
70歳以上	168	24.4	28.6	17.3	13.1	7.1	11.3	14.3	14.3	4.8	5.4	32.7	16.7
年収別													
100万円未満	440	36.6	34.1	22.3	19.8	12.3	14.5	11.6	10.7	4.5	4.8	28.6	7.3
～300万円未満	439	33.7	33.9	17.1	20.7	13.0	12.8	11.6	10.7	4.1	4.8	24.8	13.4
～500万円未満	286	37.8	36.4	19.9	15.4	8.4	8.7	10.1	11.5	4.2	3.8	24.8	5.9
～800万円未満	190	44.7	41.6	31.1	23.7	24.7	15.3	19.5	17.4	5.3	5.8	13.7	8.4
～1000万円未満	53	52.8	47.2	47.2	34.0	28.3	17.0	26.4	17.0	9.4	3.8	5.7	7.5
1000万円以上	28	35.7	46.4	39.3	53.6	42.9	25.0	25.0	28.6	17.9	21.4	10.7	10.7
地域別													
首都圏	906	37.0	37.0	23.6	22.1	14.6	13.9	12.8	13.8	5.2	5.4	22.5	9.2
阪神圏	609	35.8	33.8	20.9	18.9	14.9	12.3	12.8	10.2	4.8	4.4	25.8	11.2

問 32 【投資信託について入手したい情報(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

	N	基準価額	分配金の額	騰落率	販売手数料率・額	信託報酬率・額	決算頻度	純資産残高	信託期間	設定年月日	信託財産留保金のあるなし	その他	無回答
全体	1515	36.5	35.7	22.5	20.8	14.7	13.3	12.8	12.3	5.0	5.0	23.8	10.0
保有状況別													
現在保有層	125	59.2	64.0	54.4	40.8	36.8	28.0	44.8	33.6	21.6	20.8	4.8	4.0
保有経験層	125	47.2	52.0	38.4	29.6	14.4	24.0	26.4	15.2	8.8	6.4	16.0	3.2
保有未経験・購入意向層	93	57.0	46.2	37.6	37.6	22.6	22.6	22.6	28.0	9.7	6.5	7.5	4.3
保有未経験・非購入意向層	1172	31.3	30.1	16.2	16.4	11.8	9.8	7.2	8.5	2.5	3.1	28.0	11.8
保有種類別													
株式投資信託保有層	81	60.5	61.7	50.6	44.4	39.5	32.1	46.9	34.6	22.2	21.0	2.5	6.2
公社債投資信託のみ保有層	11	72.7	81.8	54.5	54.5	54.5	27.3	45.5	36.4	36.4	36.4	9.1	0.0
その他投資信託保有層	27	59.3	63.0	70.4	29.6	25.9	22.2	40.7	33.3	14.8	18.5	11.1	0.0



### (5) 確定拠出年金の加入状況

確定拠出年金(日本版 401k)の加入状況については、「加入しており、投資信託を購入している」は1.5%、「加入しているが、投資信託は購入していない」は3.6%であり、両者を合わせた“加入率”は5.1%に過ぎない。

時系列でも、大きな変化はみられない。

対象者属性別については、性別では大きな差はみられない。

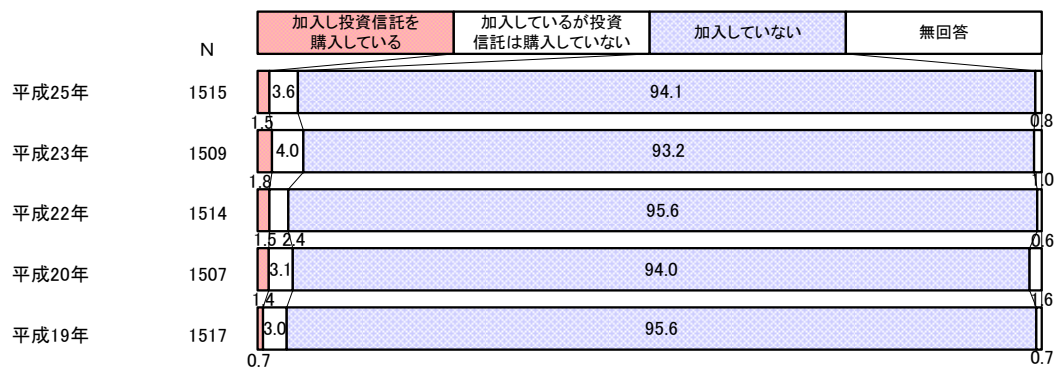
年代別では、“加入率”は年代が上がるにつれ高くなり、50代で10%に達する。ただし、60代以上ではほとんど加入していない。

年収別では、「～1000万円未満」の層では「加入し投資信託を購入している」が15.1%と高く、“加入率”は28.3%にのぼる。「～800万円未満」の層でも“加入率”は16.3%みられるが、それ以下の層では3%未満とごくわずかに過ぎない。

地域別では大きな差はみられない。

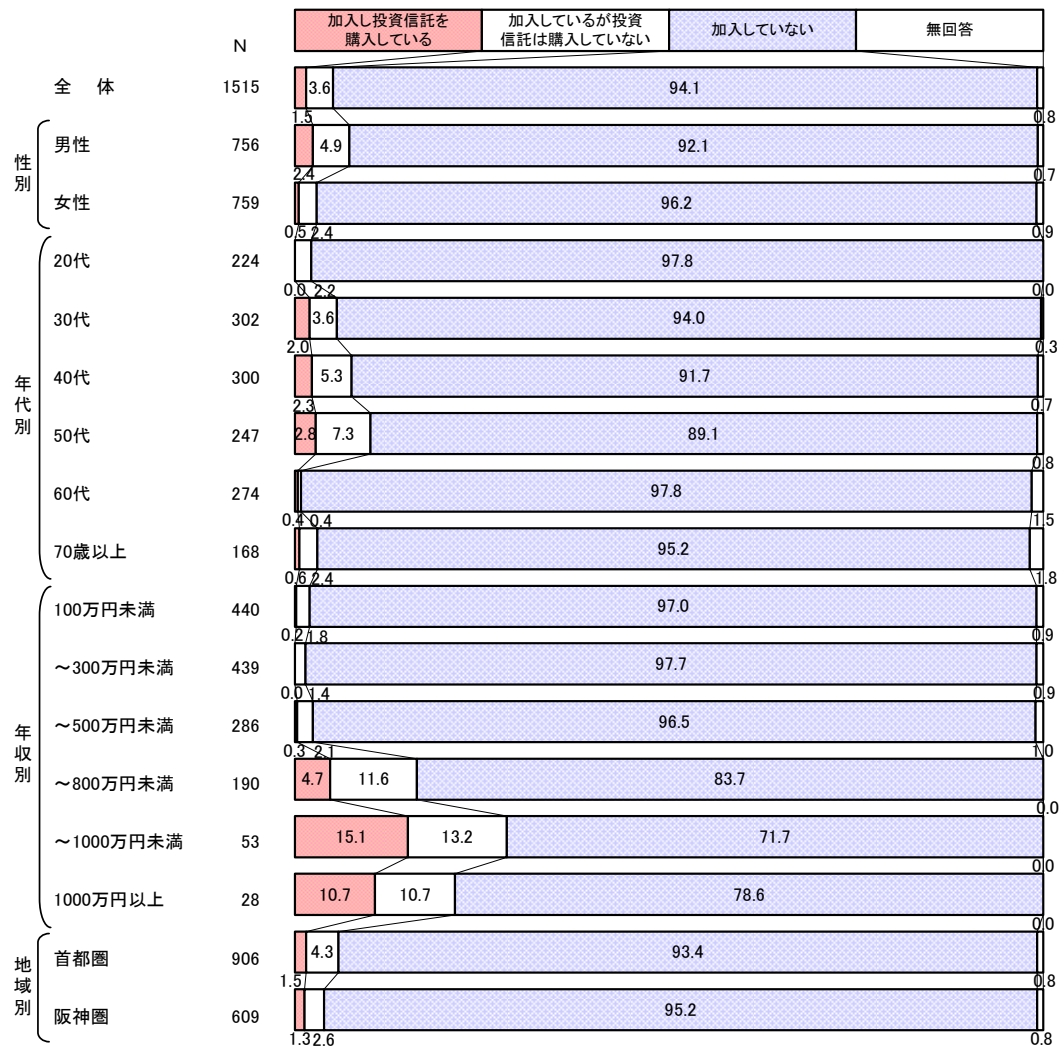
投資信託保有状況別でみると、現在保有層では「加入し投資信託を購入している」が8.0%みられ、“加入率”も15.2%と高い。次いで“加入率”が高いのは、保有未経験・購入意向層(8.7%)であり、保有経験層(3.2%)を上回る。

問 33 【確定拠出年金の加入状況(単数回答)／時系列】



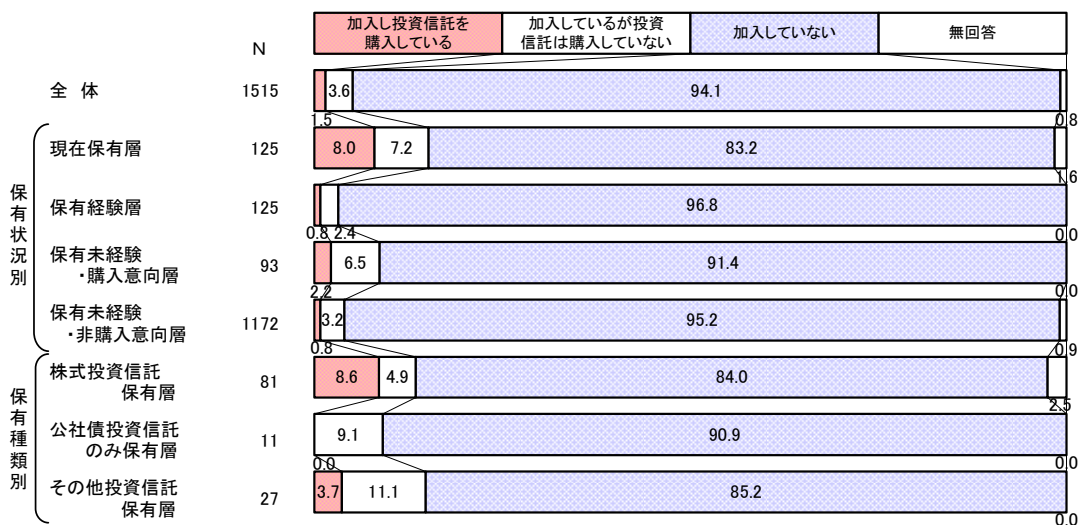
問 33 【確定拠出年金の加入状況(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



問 33 【確定拠出年金の加入状況(単数回答)／保有状況別・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



## (6) 上場投資信託（ETF・不動産投信）の認知と興味

### ① 上場投資信託の認知

証券取引所に上場している投資信託の認知率は、「不動産投信（J-REIT）」が 10.8%、「ETF（株価指数等に連動する投資信託）」が 6.4%である。この2つの「どちらも知らない」が 87.3%と大半を占め、上場投資信託についてはあまり知られていない。

時系列でも、「不動産投信」「ETF」とも認知率に大きな変化はみられない。

対象者属性別については、性別では、男性の方が「不動産投信」「ETF」とも認知率が高い。

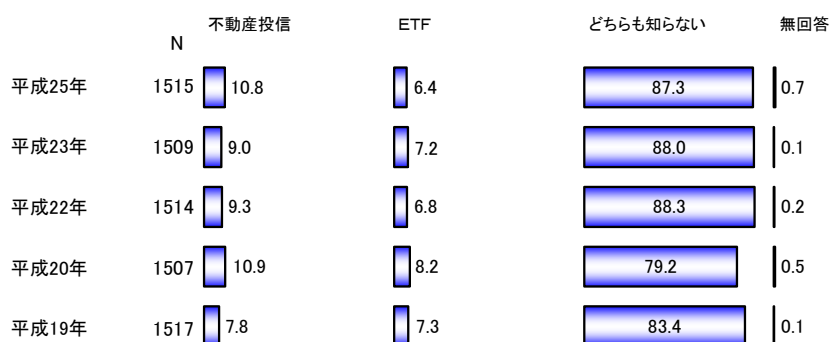
年代別でみると、「不動産投信」の認知率は 20代では 4.0%と低めだが、50代以上では 14%前後とやや高い。「ETF」でも 50代は 10.1%で最も高いが、20代は 3.1%と低めである。

年収別では、いずれも年収が高いほど認知率が高くなる傾向がみられ、「～1000万円未満」の層では「不動産投信」は 41.5%、「ETF」も 22.6%にのぼる。

地域別では大きな差はみられない。

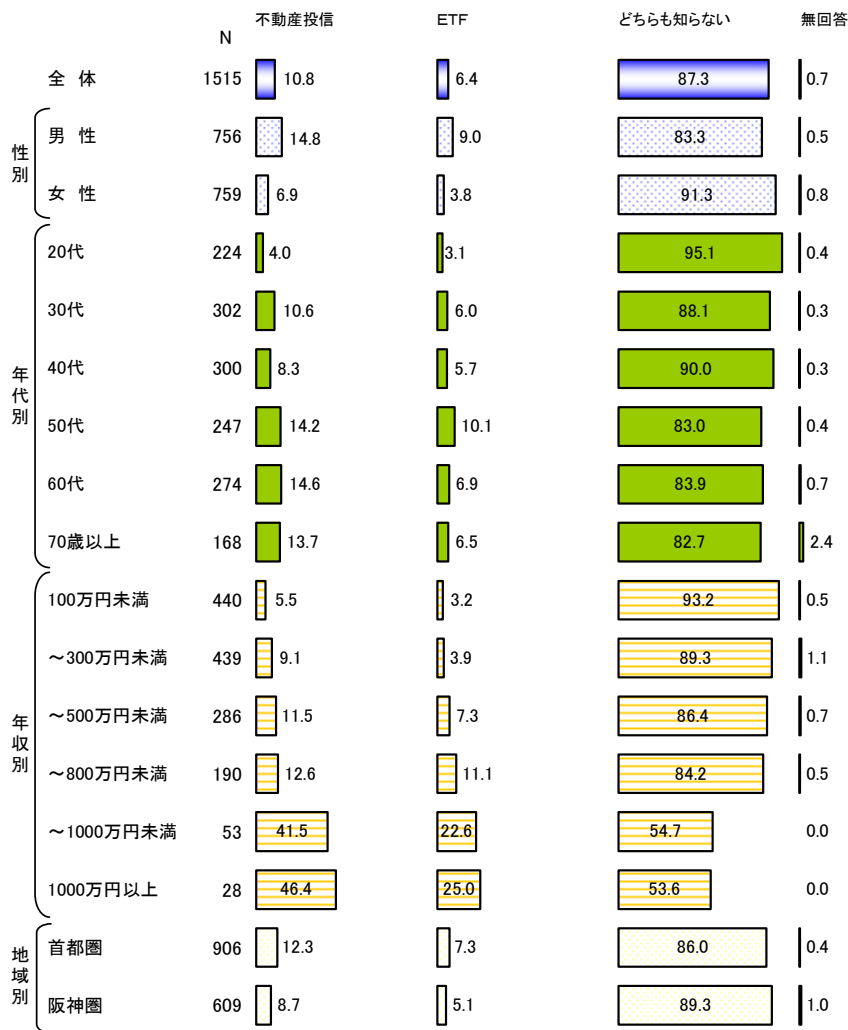
投資信託保有状況別については、現在保有層は半数が「不動産投信」を認知しており（54.4%）、「ETF」の認知率も 33.6%にのぼる。保有経験層では「不動産投信」（22.4%）、「ETF」（16.0%）ともに現在保有層の半分程度の認知率である。保有未経験・購入意向層ではさらに認知率は下がるが（「不動産投信」16.1%、「ETF」9.7%）、保有未経験・非購入意向層（いずれも 5%以下）に比べると高い。

### 問 34 【上場投資信託の認知（重複回答）／時系列】



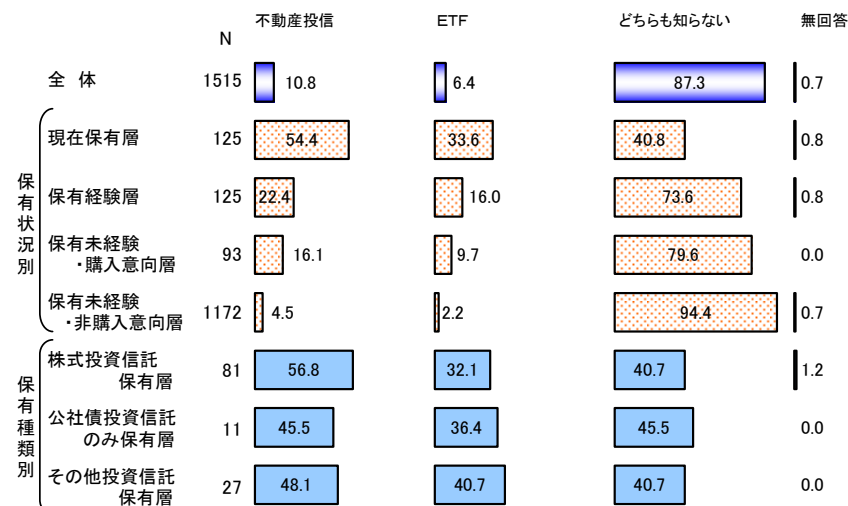
問 34 【上場投資信託の認知(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 34 【上場投資信託の認知(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



## ② E T F への興味

上場投資信託のうち E T F については、「現在保有している」＝保有率は 0.9%、「購入してみたい」＝購入意向率は 1.4%である。4人に3人が「詳しく知らないのでわからない」(74.5%)と答えており、「購入するつもりはない」(21.6%)を大きく上回っている。

時系列でみると、保有率、購入意向率ともに平成 22 年以降、大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、保有率、購入意向率ともに大きな差はみられないが、男性は女性より「購入するつもりはない」が高く、女性は「詳しく知らないのでわからない」が高い。

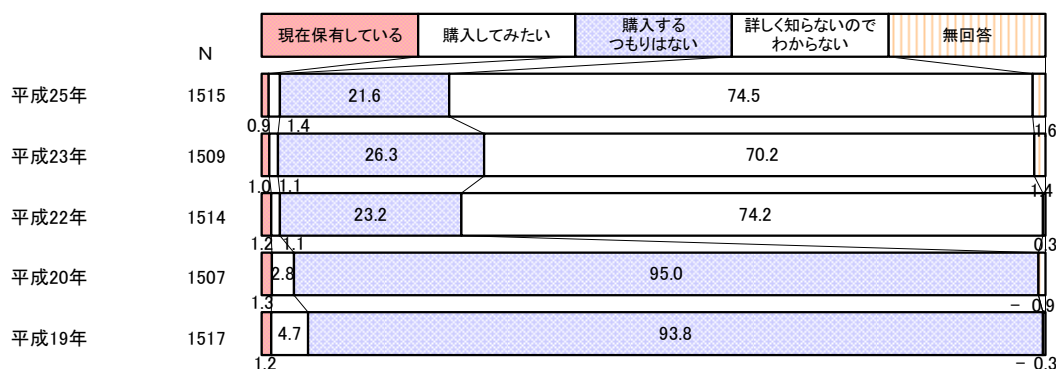
年代別でみると、保有率、購入意向率ともに大きな差はみられない。20～30 代では「詳しく知らないのでわからない」が 80%以上を占め、「購入するつもりはない」は 15%以下と低いが、年代が上がるにつれて「購入するつもりはない」が高くなり、70 歳以上の高年齢層では 35.1%にのぼる。

年収別でみると、保有率は「～1000 万円未満」の層で 7.5%と特に高く、この層では購入意向率も 3.8%みられる。「詳しく知らないのでわからない」は年収が低いほど高い傾向がみられるのに対し、「購入するつもりはない」は年収が高いほど高くなる傾向がややみられ、同じ非購入意向でも年収によって知識レベルに差がある様子が見える。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、現在保有層の E T F 保有率は 11.2%である。購入意向率は現在保有層で 6.4%、保有経験層と保有未経験・購入意向層はともに 4%台である。「購入するつもりはない」は現在保有層と保有経験層はともに約 35%で並ぶが、保有未経験の 2つの層はともに 20%に満たず、「詳しく知らないのでわからない」が大半を占める。

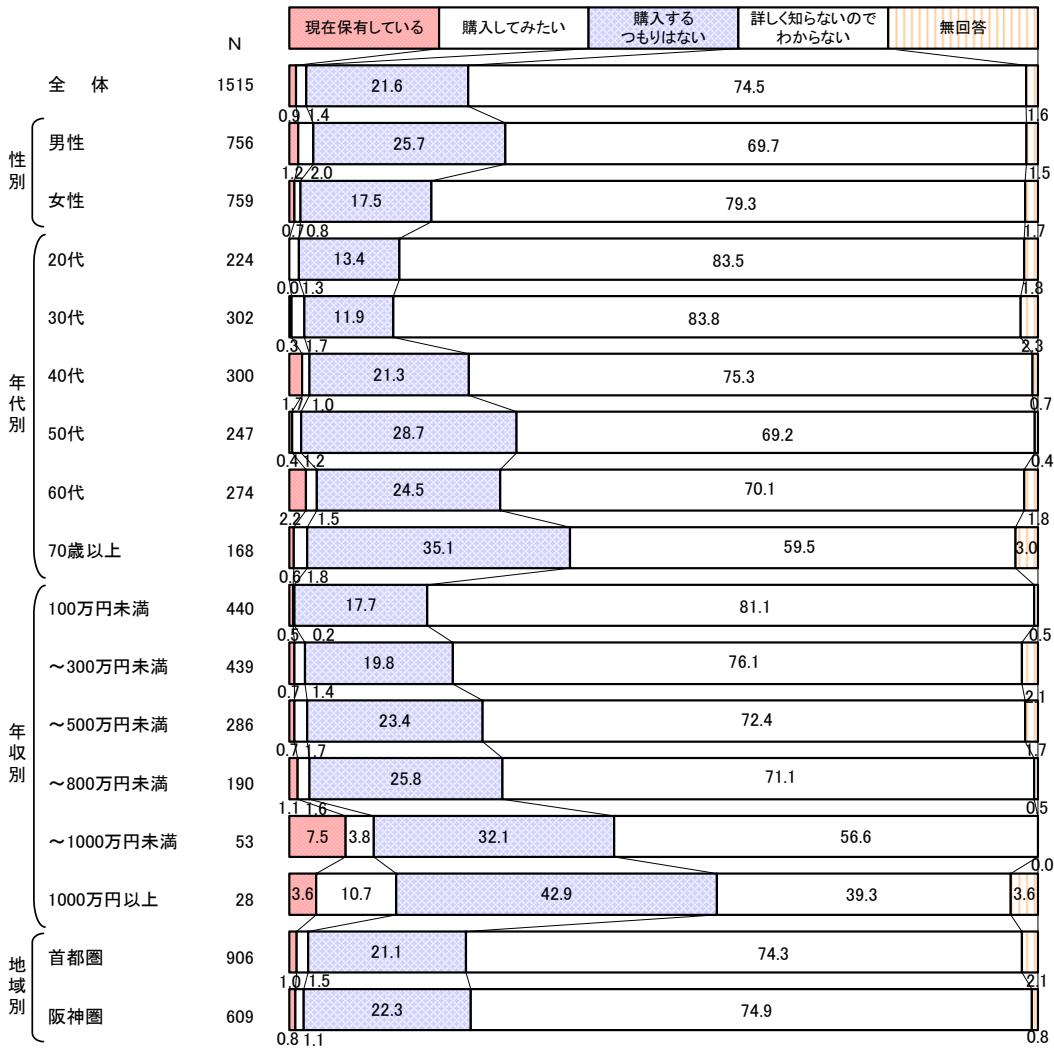
### 問 35①【E T F への興味(単数回答)／時系列】



※ 平成 22 年より「詳しく知らないのでわからない」を追加。

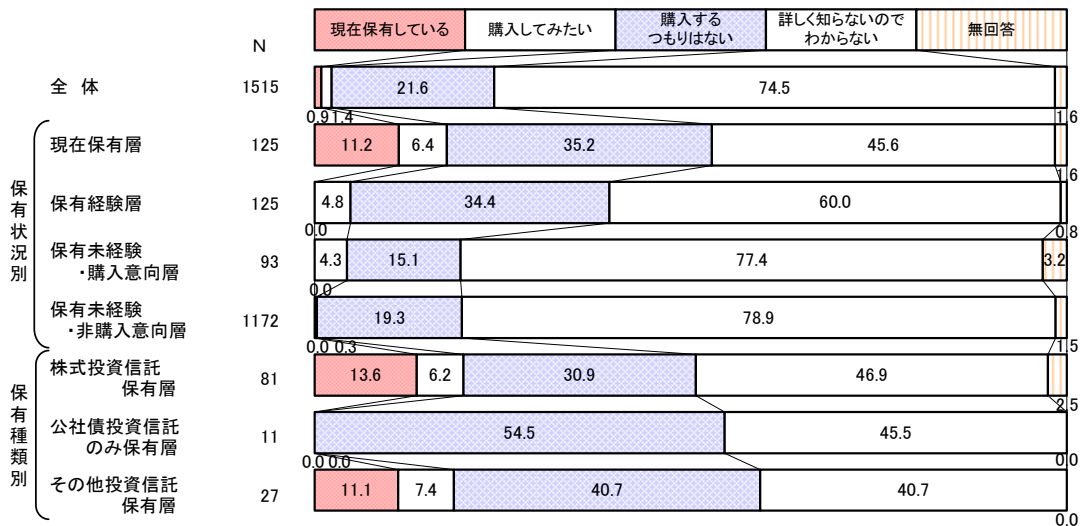
問 35①【ETFへの興味(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 35①【ETFへの興味(単数回答)／保有状況・保有種別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。





### ③不動産投信への興味

上場投資信託のうち不動産投信については、「現在保有している」＝保有率は2.4%、「購入してみたい」＝購入意向率は1.5%である。「詳しく知らないのでわからない」が71.9%と大半を占め、「購入するつもりはない」(22.5%)を大きく上回っている。

時系列でみると、保有率、購入意向率とも大きな変化はみられないが、「購入するつもりはない」は前回より5.2ポイント下がった。

対象者属性別にみると、性別では、保有率や購入意向率に大きな差はみられないが、男性は女性より「購入するつもりはない」が高く、女性は「詳しく知らないのでわからない」が高い。

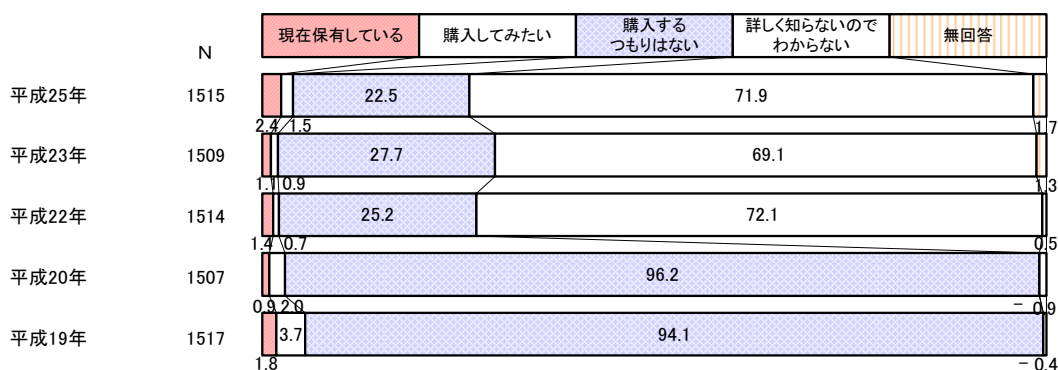
年代別でみると、購入意向率には大きな差はみられないが、保有率は50代以上で4%台とやや高い。20～30代では「購入するつもりはない」は約13%と低く、大半が「詳しく知らないのでわからない」であるが、年代が上がるにつれて「購入するつもりはない」が高くなり、70歳以上では40%近くにのぼる。

年収別では、保有率は「～1000万円未満」で13.2%と特に高い。購入意向率は“500万円未満”の層ではほとんどみられないのに対し、それ以上の層では約5%みられる。「詳しく知らないのでわからない」は年収が低い層ほど高く、「100万円未満」の層では大半をこれが占めるが、「～1000万円未満」の層では「購入するつもりはない」と「詳しく知らないのでわからない」が拮抗しており、年収が高めの層では知識はあるが、購入しないという人も多い。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、現在保有層の不動産投信の保有率は29.6%である。購入意向率は現在保有層と保有経験層はともに約6%で並ぶが、保有未経験・購入意向層では2.2%にとどまる。「購入するつもりはない」は現在保有層より保有経験層の方が高く、保有経験層では知識はあるが意識的に購入しないという人が多い。

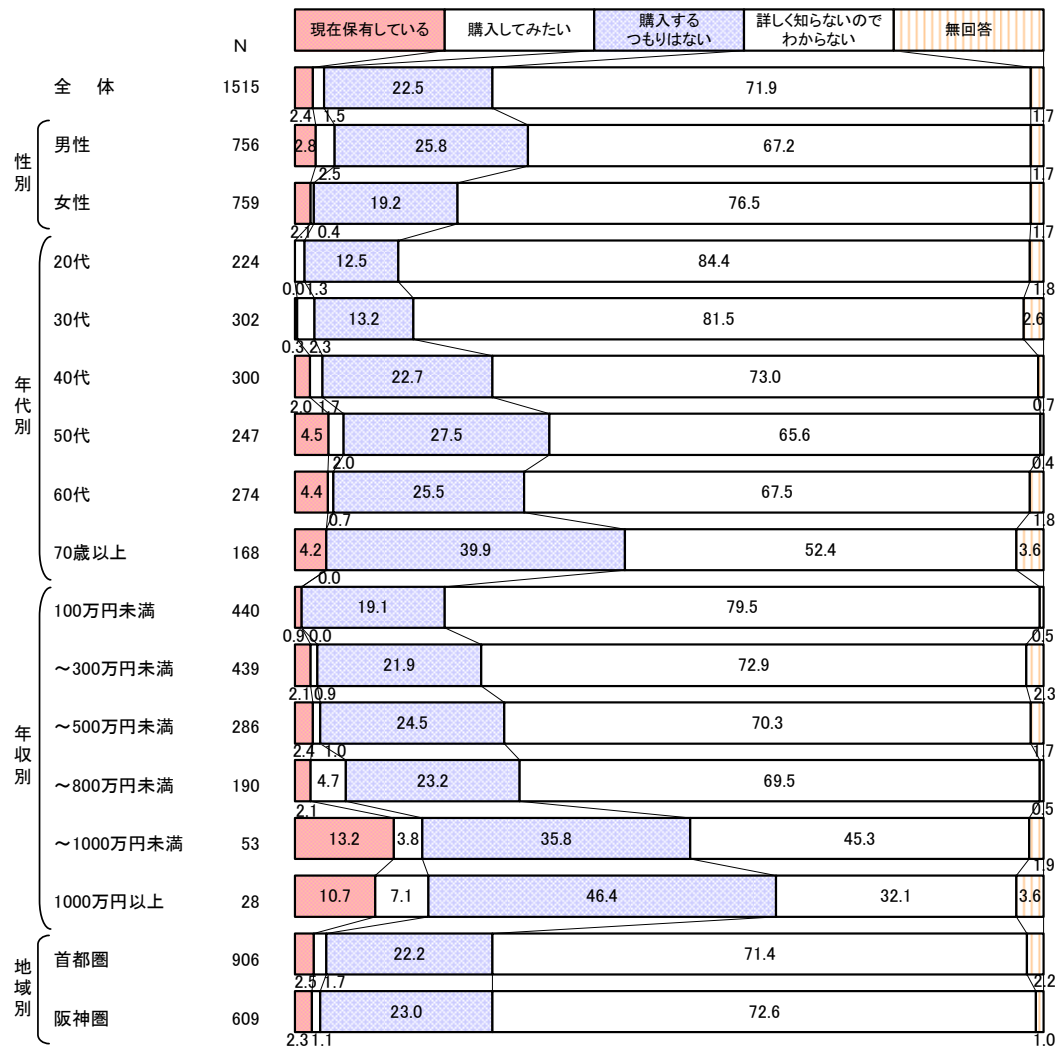
#### 問 35②【不動産投信への興味(単数回答)／時系列】



※ 平成22年より「詳しく知らないのでわからない」を追加。

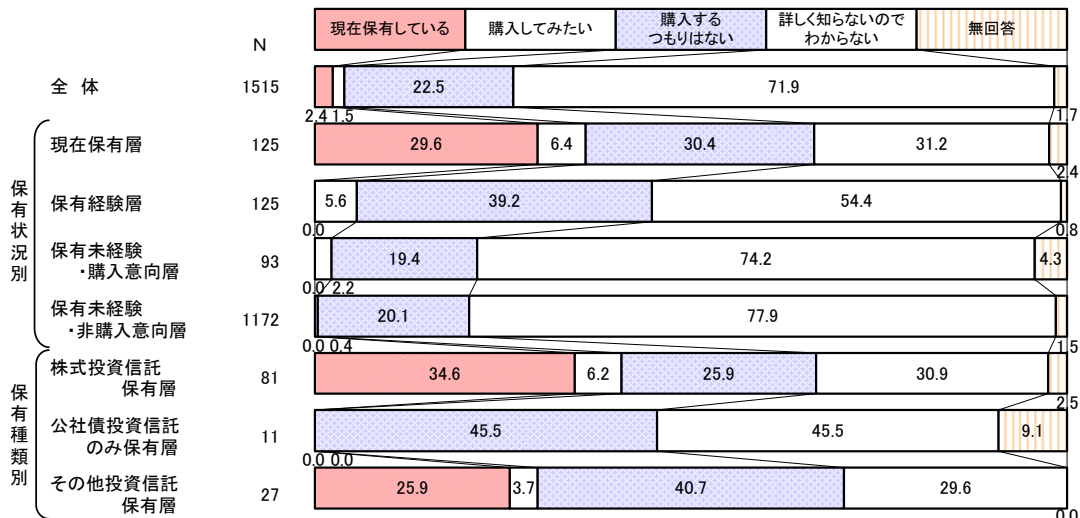
問 35②【不動産投信への興味(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 35②【不動産投信への興味(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



## 7. 投資信託をはじめとする金融商品への期待・関心状況(全体)

### (1) 資産の運用方針

今後の資産運用について最優先して考えていることは、「元本が保証されていること」が最も高く、57.7%と過半数を占める。次いで「少額でも出し入れ自由」(11.0%)と「利回り」(10.5%)と「値上がり期待」(9.4%)がほぼ同率で続く。これら以外は5%に満たない。

時系列でみると、前回までは「元本が保証されていること」に微増傾向がみられたが、今回は前回並に止まっている。「値上がり期待」は前回の比率と大きな変化はみられないものの、「利回り」等との差が小さくなり、「少額でも出し入れ自由」を加えた3項目がほぼ同率で並んだ。

対象者属性別にみると、性別では、女性は男性に比べて「元本が保証されていること」の優先度が高い。

年代別では、「元本が保証されていること」の優先度は50代と70歳以上で60%台と高いが、年代が下がるにしたがって低くなる。「値上がり期待」も50代で最も高い山型となっている。20代では「少額でも出し入れ自由」が他の年代に比べて高めである。

年収別では、「元本が保証されていること」は「100万円未満」の層で最も高く、年収が上がるにしたがって低くなる。一方、「値上がり期待」は年収が上がるにしたがって高くなる傾向がみられ、「～1000万円未満」の層では20.8%と特に高い。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では「元本が保証されていること」が35.2%と低い代わりに、「利回り」が22.4%と高く、「値上がり期待」も29.6%とさらに高い。保有経験層は「元本が保証されていること」が過半数を占めているものの、「値上がり期待」も17.6%と高い。「値上がり期待」は現在保有層、保有経験層、保有未経験・購入意向層、保有未経験・非購入意向層の順となっており、投資信託との関係が深いほど期待度が高い傾向がみられる。

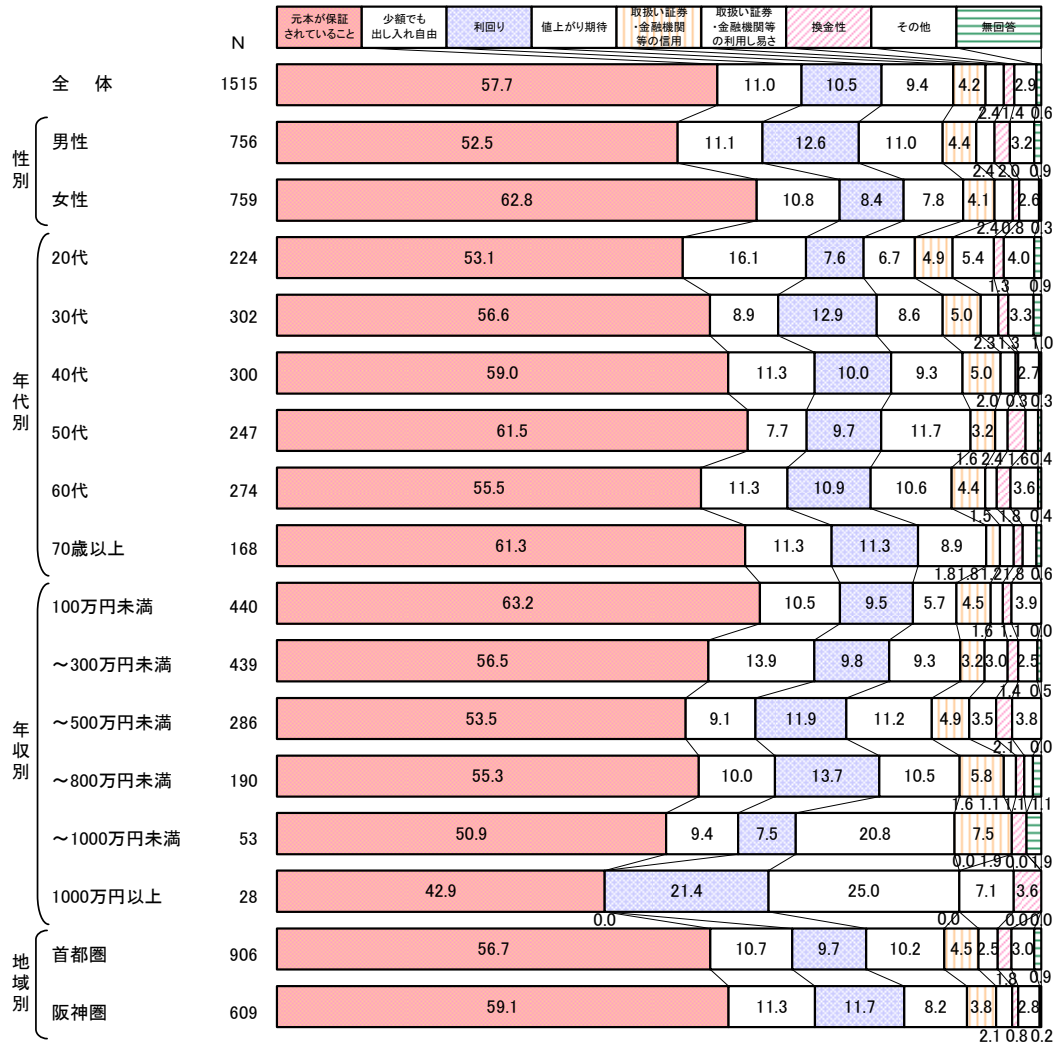
投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層はその他投資信託保有層に比べて「値上がり期待」が高い。

問 25 【資産の運用方針(単数回答)／時系列】

	N	元本が保証 されていること	少額でも 出し入れ自由	利回り	値上がり期待	取扱い証券・ 金融機関 等の信用	取扱い証券・ 金融機関等 の利用し易さ	換金性	その他	無回答
平成25年	1515	57.7				11.0	10.5	9.4	4.2	2.9
平成23年	1509	58.0				10.4	10.3	6.9	4.7	3.6
平成22年	1514	56.1				16.9	10.8	5.7	4.6	2.9
平成20年	1507	54.6				14.7	12.9	6.2	4.3	3.8
平成19年	1517	52.1				17.5	14.4	6.1	4.2	2.8

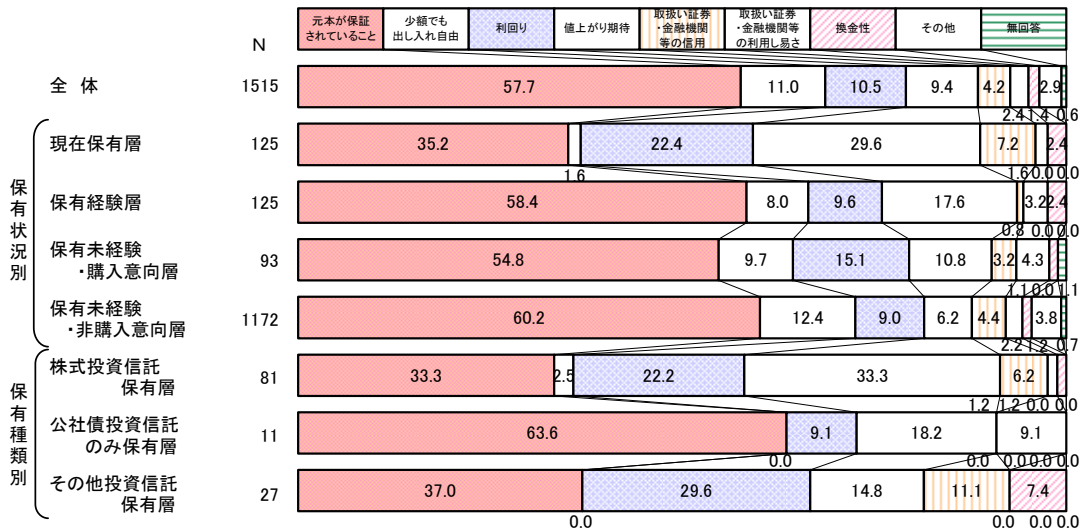
問 25 【資産の運用方針(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 25 【資産の運用方針(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



## (2) 現在保有している金融商品と今後購入対象として考えている金融商品

### ① 現在保有している金融商品

現在保有している金融商品は、「普通預貯金」が 80.7% で特に高い。以下、「ゆうちょ銀行の定額貯金」(41.5%)、「定期預金」(34.9%) の順に続く。「株式」(14.4%) と「貯蓄型保険」(11.7%) の保有率は 10% 台であるが、これら以外の保有率は 10% に満たない。「国内の投資信託」は 7.2%、「外国で作られた投資信託」は 3.8% である。

時系列でみると、「普通預貯金」の保有率には微減傾向がみられる。

対象者属性別にみると、性別では、女性は「ゆうちょ銀行の定額貯金」の保有率が男性より高いが、男性は「定期預金」と「株式」保有率が女性を上回る。

年代別では、20 代は「普通預貯金」以外の商品の保有率が低く、保有商品の広がりが小さい。「普通預貯金」以外の商品の保有率は年代が上がるにつれて高くなるものが多く、高齢層ほど多様な金融商品を保有する傾向がみられる。ただし、「貯蓄型保険」は 50 代が最も高く、「財形貯蓄」は 40～50 代が主な保有層となっている。

年収別にみると、「ゆうちょ銀行の定額貯金」保有率は「100 万円未満」では比較的高いが、年収が上がると保有率が下がる傾向がやや見られる。「定期預金」「株式」「貯蓄型保険」「財形貯蓄」の保有率は年収が高いほど高くなる傾向がみられる。「国内の投資信託」や「外国で作られた投資信託」の保有率は「～1000 万円未満」の層から急に高くなっており、年収が高いほど保有している金融商品の幅が広がる様子が見られる。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別にみると、現在保有層の預貯金以外の金融商品保有率では「国内の投資信託」が 86.4% と特に高い。この層は「株式」(52.8%) と「外国で作られた投資信託」(46.4%) をほぼ半数が保有し、「国債・公債・社債・転換社債」(22.4%)、「外貨預金」(16.0%) も他の層に比べて高いことから、現在保有層は多様な種類の商品を保有していることがわかる。保有経験層では、預貯金の他は「株式」(40.0%) が主であり、それ以外の金融商品の保有率は 15% に満たない。保有未経験層は購入意向層・非購入意向層ともに預貯金以外の金融商品の保有率は低い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層はその他投資信託保有層よりも「普通預貯金」「株式」「国内の投資信託」が高く、「外国で作られた投資信託」が低い。

### 問 27 【現在保有している金融商品(重複回答)／時系列】

N	普通 預貯金	ゆうちょ 銀行の 定額 貯金	定期 預金	株式	貯蓄型 保険	財形 貯蓄	国内の 投資 信託	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	外貨 預金	外国で 作られた 投資 信託	変額 年金	外国 債券	金貯蓄 口座	外国為 替証拠 金取引 (FX)	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答	
平成25年	1515	80.7	41.5	34.9	14.4	11.7	7.3	7.2	4.7	4.1	3.8	1.8	1.5	1.3	0.9	0.3	0.1	2.6	2.6
平成23年	1509	83.4	39.8	34.2	15.8	12.5	8.0	7.9	5.0	4.4	4.0	2.4	1.5	1.2	0.8	0.1	0.0	1.5	2.5
平成22年	1514	86.2	43.1	38.8	15.1	12.5	8.9	8.7	6.3	4.3	4.2	1.5	1.8	1.3	0.5	0.1	0.0	0.6	1.8
平成20年	1507	85.5	46.2	39.1	14.1	15.3	8.5	10.2	6.8	3.5	4.7	2.3	2.4	1.1	-	0.4	-	0.9	1.3
平成19年	1517	88.7	46.3	40.2	15.9	16.7	10.9	8.8	6.5	3.5	4.0	2.4	1.7	1.1	-	0.2	-	0.7	1.8

※ 平成 22 年より「ラップ口座・SMA」「外国為替証拠金取引(FX)」を追加。

問 27 【現在保有している金融商品(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	普通 預貯金	ゆうちょ 銀行の 定期 貯金	定期 預金	株式	貯蓄型 保険	財形 貯蓄	国内の 投資 信託	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	外貨 預金	外国で 作られた 投資 信託	変額 年金	外国 債券	金貯蓄 口座	外国為 替証拠 金取引 (FX)	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答	
全体	1515	80.7	41.5	34.9	14.4	11.7	7.3	7.2	4.7	4.1	3.8	1.8	1.5	1.3	0.9	0.3	0.1	2.6	2.6	
性別																				
男性	756	79.2	37.4	38.1	18.9	11.2	9.1	8.2	4.9	4.4	3.4	1.9	1.5	1.9	1.2	0.4	0.1	2.0	3.6	
女性	759	82.2	45.5	31.6	9.9	12.3	5.5	6.2	4.5	3.8	4.2	1.7	1.4	0.8	0.5	0.1	0.0	3.2	1.6	
年代別																				
20代	224	80.8	27.2	12.9	2.2	4.5	4.5	0.9	0.0	0.9	0.0	0.0	0.4	1.3	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	
30代	302	81.5	31.5	27.5	8.3	10.6	6.0	2.6	2.0	3.3	0.3	2.3	0.7	1.0	3.0	0.3	0.0	3.0	3.6	
40代	300	83.3	41.3	34.7	13.0	14.3	12.7	5.3	3.7	5.3	3.0	2.3	1.7	1.0	0.7	0.0	0.3	2.3	1.7	
50代	247	78.1	44.5	46.2	23.5	17.4	12.1	11.7	6.1	6.5	7.3	2.4	2.0	2.8	0.4	0.8	0.0	2.0	1.6	
60代	274	80.7	52.6	48.2	21.2	12.8	3.6	12.0	8.8	4.0	6.9	1.8	1.8	1.5	0.4	0.4	0.0	2.6	2.9	
70歳以上	168	78.6	56.0	39.3	19.6	8.9	3.0	12.5	8.9	4.2	6.5	1.2	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	1.2	
年収別																				
100万円未満	440	82.3	46.8	27.3	7.5	10.2	4.5	5.5	3.4	3.4	3.9	1.6	1.1	0.7	0.2	0.0	0.0	3.0	1.8	
～300万円未満	439	80.6	39.6	31.4	11.2	10.5	3.2	5.5	4.1	1.8	3.0	1.1	0.9	1.4	0.7	0.2	0.0	2.7	3.0	
～500万円未満	286	79.7	39.9	38.1	13.6	11.5	6.3	6.3	4.9	5.2	3.5	1.0	1.0	0.7	0.7	0.3	0.0	2.8	3.5	
～800万円未満	190	81.1	38.9	44.7	24.7	15.3	16.8	8.9	6.3	6.3	2.1	3.2	2.1	1.6	2.1	0.0	0.0	1.6	1.6	
～1000万円未満	53	73.6	35.8	60.4	45.3	20.8	26.4	30.2	11.3	5.7	18.9	0.0	7.5	5.7	5.7	1.9	0.0	0.0	0.0	
1000万円以上	28	82.1	46.4	60.7	50.0	28.6	39.3	25.0	14.3	10.7	7.1	10.7	3.6	7.1	0.0	3.6	3.6	0.0	0.0	
地域別																				
首都圏	906	78.7	40.4	35.3	15.8	12.5	9.3	7.4	5.0	4.4	4.1	2.0	1.4	1.7	0.9	0.3	0.1	3.3	3.1	
阪神圏	609	83.7	43.0	34.2	12.3	10.7	4.4	6.9	4.3	3.6	3.4	1.5	1.5	0.8	0.8	0.2	0.0	1.5	1.8	

問 27 【現在保有している金融商品(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	普通 預貯金	ゆうちょ 銀行の 定期 貯金	定期 預金	株式	貯蓄型 保険	財形 貯蓄	国内の 投資 信託	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	外貨 預金	外国で 作られた 投資 信託	変額 年金	外国 債券	金貯蓄 口座	外国為 替証拠 金取引 (FX)	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答	
全体	1515	80.7	41.5	34.9	14.4	11.7	7.3	7.2	4.7	4.1	3.8	1.8	1.5	1.3	0.9	0.3	0.1	2.6	2.6	
保有状況別																				
現在保有層	125	76.0	47.2	53.6	52.8	18.4	11.2	86.4	22.4	16.0	46.4	6.4	13.6	4.8	2.4	1.6	0.0	0.8	0.0	
保有経験層	125	74.4	49.6	54.4	40.0	13.6	6.4	0.0	12.8	5.6	0.0	2.4	1.6	0.8	1.6	0.8	0.0	4.0	1.6	
保有未経験 ・購入意向層	93	86.0	47.3	39.8	18.3	17.2	11.8	0.0	5.4	9.7	0.0	2.2	1.1	3.2	2.2	0.0	0.0	1.1	1.1	
保有未経験 ・非購入意向層	1172	81.5	39.5	30.4	7.3	10.4	6.7	0.1	1.9	2.2	0.0	1.2	0.2	0.9	0.5	0.1	0.1	2.7	3.1	
保有種類別																				
株式投資信託 保有層	81	79.0	49.4	56.8	60.5	22.2	13.6	100.0	22.2	16.0	40.7	7.4	13.6	6.2	2.5	1.2	0.0	1.2	0.0	
公社債投資信託 のみ保有層	11	90.9	63.6	63.6	36.4	0.0	9.1	100.0	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他投資信託 保有層	27	63.0	40.7	44.4	33.3	11.1	7.4	48.1	22.2	25.9	85.2	7.4	18.5	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	



## ②保有金融商品総額

現在の保有金融商品総額については、「100万円未満」が37.0%、「100万～300万円未満」が19.7%であり、「300万円未満」が56.7%と過半数を占める。一方、「1000万円以上」は10.2%に過ぎない。平均保有額は444.0万円である。

時系列でみると、「300万円未満」の比率は平成20年以降微増傾向が続いているが、平均保有額でみると、前回に比べ17.7万円増えている。

対象者属性別にみると、性別では、男性は「300万円未満」の比率が女性より低く、平均保有額も男性の方が62.9万円高い。

年代別では、年代が上がるにつれて平均保有額が上がる傾向がみられ、20代は平均が102.2万円に過ぎないが、60代以上では800万円近くにのぼる。各年代間の差をみると、20～40代の間は約100万円と伸びが小さめだが、40代と50代の間では300万円弱と大きく伸び、50～60代の間も約200万円と大きい。60代と70歳以上ではほぼ同額で増加していない。

年収別では、当然のことながら年収が高いほど平均保有額は高くなり、年収「100万円未満」の層の平均保有額が308.3万円に対し、年収「～1000万円未満」の層の保有額は平均913.0万円にのぼる。平均保有額の各層の間の差をみると、年収「～300万円未満」と「～500万円未満」の層はほぼ同額であり、その前後の層でも約100万円と差が小さいが、「～800万円未満」以上の層では一気に400万円、300万円と大幅に増えている点に注目できる。

地域別では、分布には大きな差はみられないが、平均保有額は阪神圏の方が40万円ほど高い。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では保有金融商品総額の低い層から高い層まで分布が広がっているものの、「1000万円以上」が40%近くを占め、平均保有額も1175.8万円と高い。保有経験層も平均保有額は874.8万円と高いが、現在保有層に比べると300万円ほど低い。保有未経験・購入意向層は平均保有額が467.2万円、保有未経験・非購入意向層（平均313.8万円）に比べると約150万円高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層の平均保有額は1305.8万円であり、その他投資信託保有層の平均保有額809.3万円より高い。

### 問28【保有金融商品総額(単数回答)／時系列】

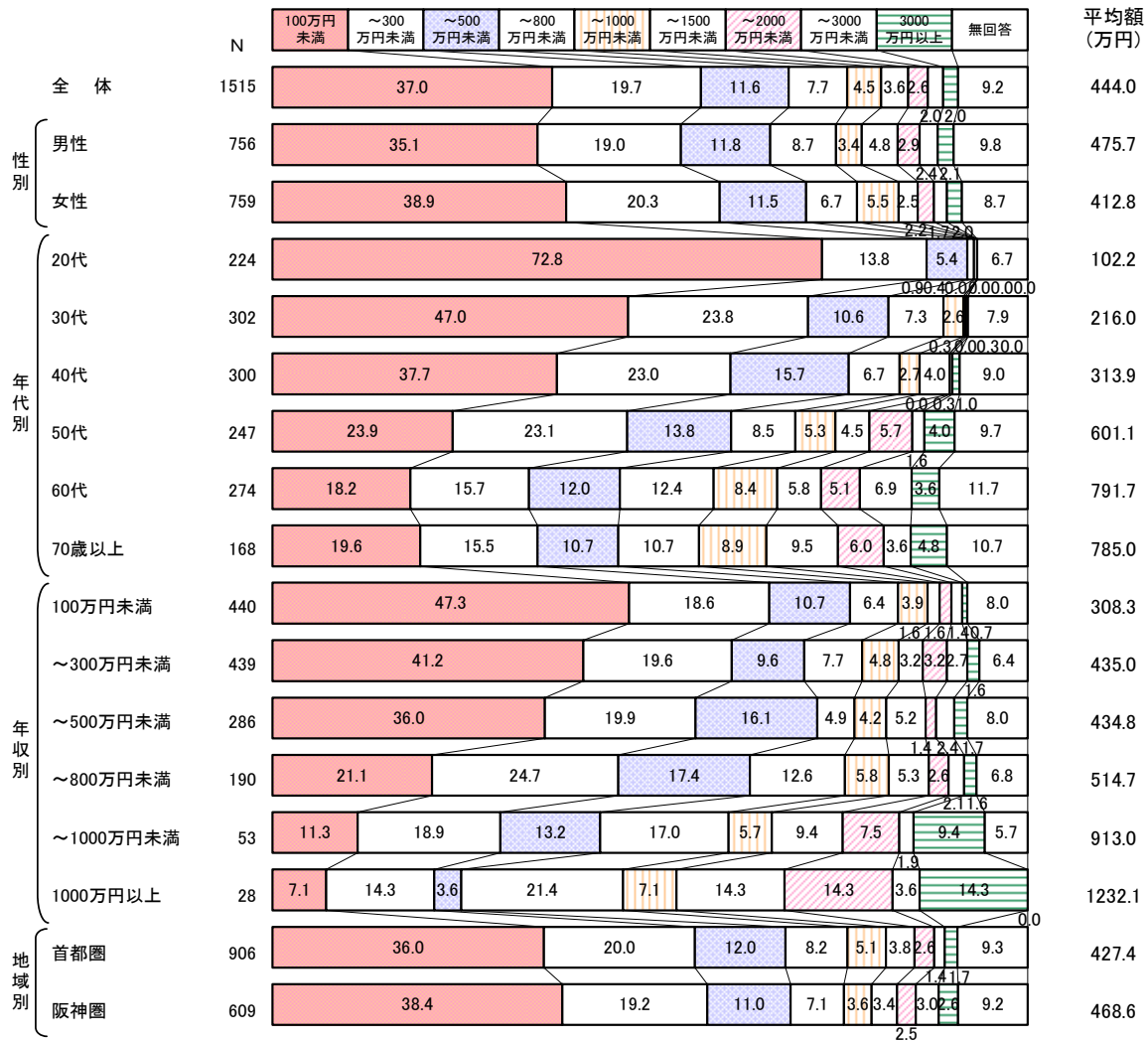
N	保有金融商品総額(単数回答)										平均額 (万円)
	100万円 未満	～300 万円未満	～500 万円未満	～800 万円未満	～1000 万円未満	～1500 万円未満	～2000 万円未満	～3000 万円未満	3000 万円以上	無回答	
平成25年 1515	37.0	19.7	11.6	7.7	4.5	3.6	2.6	2.0	2.0	9.2	444.0
平成23年 1509	35.5	20.6	10.6	8.9	5.0	3.1	2.3	1.8	1.7	10.5	426.3
平成22年 1514	35.1	20.1	12.0	8.7	4.8	4.2	2.3	2.0	2.0	9.0	439.9
平成20年 1507	31.1	20.7	11.9	14.8	3.8	2.7	2.2	1.8	2.0	10.9	(471.3)
平成19年 1517	32.5	20.6	12.2	13.6	4.8	3.4	2.2	1.8	2.0	9.0	(475.6)

※ 平成22年より「～800万円未満」を追加。

( )は、平均値算出のための選択肢の値の与え方が平成22年以降とは異なるため参考値。

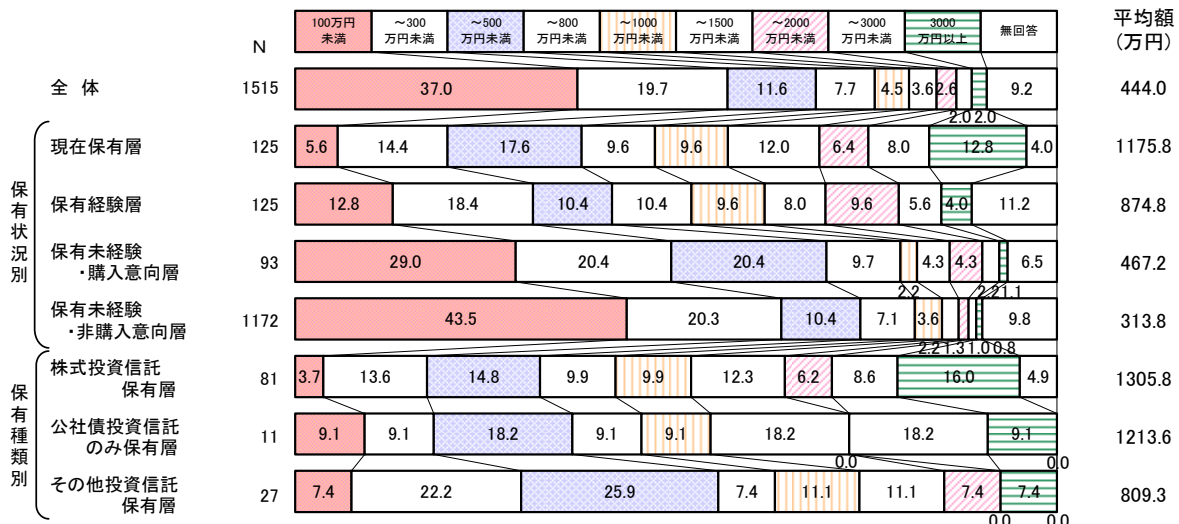
問 28 【保有金融商品総額(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 28 【保有金融商品総額(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



③今後購入対象として考えている金融商品

今後購入対象として考えている金融商品(追加投資、増額を含む)は、「普通預貯金」が46.5%で特に高く、次いで「ゆうちょ銀行の定期貯金」(36.2%)と「定期預金」(32.8%)がほぼ同率で続く。「株式」は14.8%であるが、その他は10%に満たず、「国内の投資信託」は4.5%、「外国で作られた投資信託」は1.7%にとどまる。

時系列で見ると、いずれの商品とも前回と比べて大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、男性は「株式」への関心が女性より高く、女性は「普通預貯金」と「ゆうちょ銀行の定期貯金」への関心が男性より高い。

年代別では、「定期預金」への関心は20~30代や70歳以上ではやや低く、20~30代は一般的に金融商品への関心が低めである。「株式」への関心は50代を中心とした層で高く、「貯蓄型保険」は40~50代でやや高い。

年収別では、「普通預貯金」や「ゆうちょ銀行の定期貯金」への関心は年収が高いほど低下する傾向がみられる。一方、「定期預金」「株式」「財形貯蓄」「国債・公債・社債・転換社債」は年収が高くなるほど関心度が高くなる傾向があり、高年収層では多様な金融商品への関心が高い。「国内の投資信託」への関心は「~10000万円未満」の層から急に高くなっている。

地域別では、阪神圏は首都圏に比べ「普通預貯金」と「ゆうちょ銀行の定期預金」への関心度が高い。

投資信託保有状況別で見ると、現在保有層は多様な金融商品への関心が高く、「株式」への関心も40.0%と高い。また「国内の投資信託」をさらに購入しようと考えている人も31.2%みられ、「外国で作られた投資信託」(12.0%)や「外国債券」(8.8%)への関心も他の層より高い。保有経験層と保有未経験・購入意向層ではほぼ同様の結果となっており、「株式」は約30%、「国内の投資信託」は10%弱、「国債・公債・社債・転換社債」も10%前後が関心を持っている。保有未経験・購入意向層では「財形貯蓄」への関心が他層と比較して高く(12.9%)、特徴となっている。保有未経験・非購入意向層では、預貯金以外の商品への関心度は低く、金融商品の関心領域としては貯蓄性商品が中心となっている。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層はその他投資信託保有層と比べて「株式」「国内の投資信託」が高く、「ゆうちょ銀行の定期貯金」が低い。

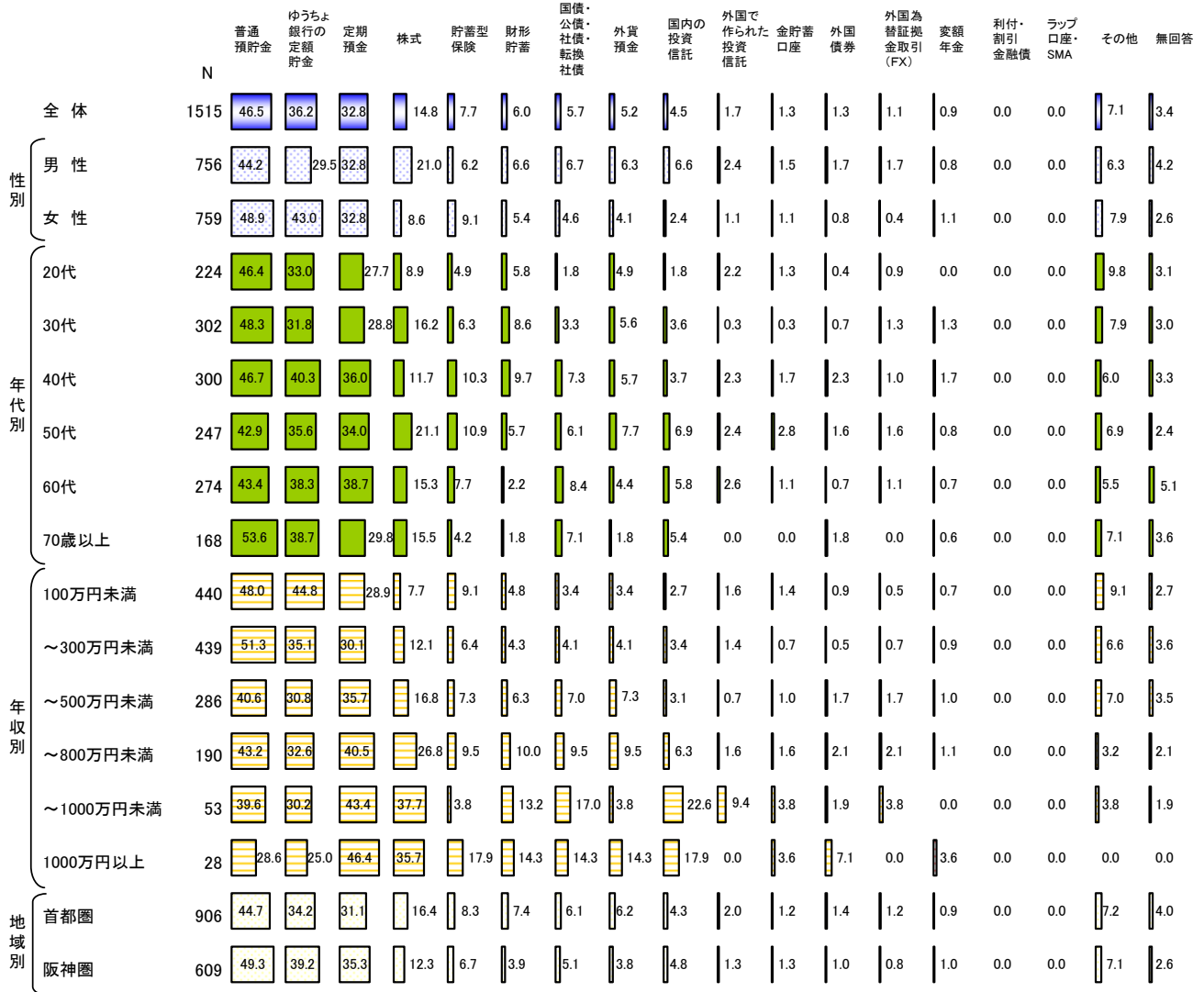
問 29 【今後購入対象として考えている金融商品(重複回答)／時系列】

	N	普通 預貯金	ゆうちょ 銀行の 定期 貯金	定期 預金	株式	貯蓄型 保険	財形 貯蓄	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	外貨 預金	国内の 投資 信託	外国で 作られた 投資 信託	金貯蓄 口座	外国 債券	外国為 替証拠 金取引 (FX)	変額 年金	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答
平成25年	1515	46.5	36.2	32.8	14.8	7.7	6.0	5.7	5.2	4.5	1.7	1.3	1.3	1.1	0.9	0.0	0.0	7.1	3.4
平成23年	1509	48.4	32.4	32.1	11.5	5.5	5.6	5.1	5.5	3.7	2.5	1.3	1.7	1.8	0.9	0.4	0.0	5.7	5.6
平成22年	1514	60.3	42.6	41.9	13.1	7.9	7.1	6.5	5.4	4.0	1.8	1.9	1.5	1.2	0.9	0.4	0.1	3.0	3.3
平成20年	1507	-	49.8	49.2	12.1	9.0	8.6	8.0	6.7	6.0	3.0	1.9	2.7	-	1.7	0.5	-	2.3	6.3
平成19年	1517	-	46.7	47.1	15.0	10.1	9.0	8.5	7.1	7.5	3.4	1.9	1.8	-	1.7	0.3	-	2.6	5.6

※ 平成22年より「普通預貯金」「外国為替証拠金取引(FX)」「ラップ口座・SMA」を追加。

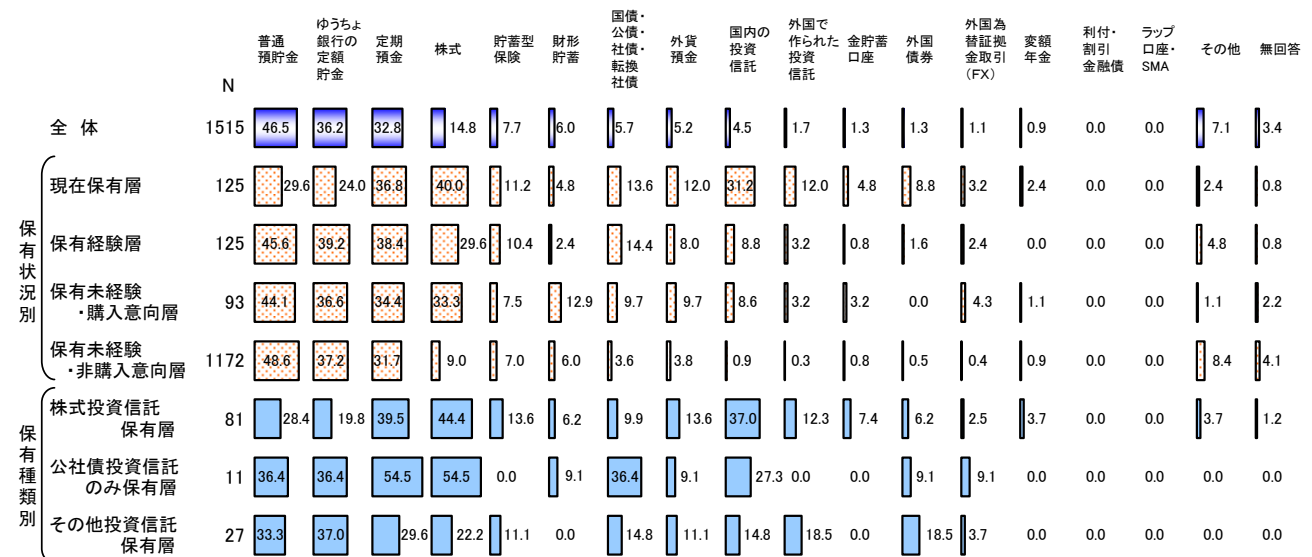
問 29 【今後購入対象として考えている金融商品(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 29 【今後購入対象として考えている金融商品(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



### (3) 希望する投資信託商品と購入方法(投資信託購入検討者)

#### ① 今後購入を考える投資信託の商品

今後の取引対象として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対し、今後投資信託への新規投資または追加投資(増額)を考える場合の商品内容について尋ねたところ、「安定した利回りを目標とするもの(値下がりのリスクは少々なら良い)」が34.6%で最も多くを占めるが、「極力元本が安全であるもの(利回りは小さくても良い)」も29.6%と僅差となっている。以下、「比較的高い分配が期待できるもの(値下がりのリスクがあっても良い)」が19.8%、「値上がりの期待が持てるもの(値下がりのリスクがあっても良い)」が13.6%の順となっており、これらを合わせた“リスク容認派”は33.4%を占める。

時系列でみると、今回は前回に比べ「安定した利回りを目標とするもの」が20.7ポイントと大きく減り、“リスク容認派”が12.4ポイント増えている。

対象者属性別にみると、性別では(女性のデータは参考データながらも)、男性は“リスク容認派”が女性より高い。

地域別では、首都圏は阪神圏に比べ「極力元本が安全であるもの」を希望する率が高く、阪神圏は「安定した利回りを目標とするもの」が高い。

#### 問 29-1【今後購入を考える投資信託の商品内容(単数回答)

／時系列－投資信託購入検討者ベース】

		極力元本が安全であるもの	安定した利回りを目標とするもの	比較的高い分配が期待できるもの	値上がりの期待が持てるもの	無回答
平成25年	N					
	81	29.6	34.6	19.8	13.6	2.5
平成23年	N					
76	22.4	55.3	11.8	9.2	1.3	
【参考】	N	安定重視のもの	利回り追求のもの	値上がり益追求のもの	積極値上がり益追求のもの	
	平成22年	72	65.3	19.4	13.9	1.4
	平成20年	107	77.6	8.4	12.1	1.9
	平成19年	143	64.3	22.4	11.9	1.4

※ 平成23年からの選択肢の内容は下記のとおり

1. 極力元本が安全であるもの(利回りは小さくても良い)
2. 安定した利回りを目標とするもの(値下がりのリスクは少々なら良い)
3. 比較的高い分配が期待できるもの(値下がりのリスクがあっても良い)
4. 値上がりの期待が持てるもの(値下がりのリスクがあっても良い)

問 29-1 【今後購入を考える投資信託の商品内容(単数回答)

／対象者属性別－投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

		N	極力元本が安全であるもの	安定した利回りを目標とするもの	比較的高い分配が期待できるもの	値上がりの期待が持てるもの	無回答
性別	全体	81	29.6	34.6	19.8	13.6	2.5
	男性	57	26.3	33.3	21.1	17.5	1.8
	女性	24	37.5	37.5	16.7	4.2	4.2
地域別	首都圏	49	36.7	24.5	18.4	16.3	4.1
	阪神圏	32	18.8	50.0	21.9	9.4	0.0

(上段:N)(下段:%)

		全 体	極力元本が安全であるもの	安定した利回りを目標とするもの	比較的高い分配が期待できるもの	値上がりの期待が持てるもの	無回答
全 体		81	24	28	16	11	2
		100.0	29.6	34.6	19.8	13.6	2.5
年代別	20代	7	2	1	2	2	-
		100.0	28.6	14.3	28.6	28.6	-
	30代	12	3	4	2	3	-
		100.0	25.0	33.3	16.7	25.0	-
	40代	13	2	5	4	1	1
		100.0	15.4	38.5	30.8	7.7	7.7
	50代	21	5	9	4	3	-
	100.0	23.8	42.9	19.0	14.3	-	
60代	19	7	6	4	1	1	
	100.0	36.8	31.6	21.1	5.3	5.3	
70歳以上	9	5	3	-	1	-	
	100.0	55.6	33.3	-	11.1	-	
年 収 別	100万円未満	17	5	6	2	3	1
		100.0	29.4	35.3	11.8	17.6	5.9
	～300万円未満	18	10	4	2	2	-
		100.0	55.6	22.2	11.1	11.1	-
	～500万円未満	11	3	5	1	1	1
		100.0	27.3	45.5	9.1	9.1	9.1
	～800万円未満	13	3	4	6	-	-
	100.0	23.1	30.8	46.2	-	-	
～1000万円未満	12	3	5	2	2	-	
	100.0	25.0	41.7	16.7	16.7	-	
1000万円以上	5	-	2	1	2	-	
	100.0	-	40.0	20.0	40.0	-	

問 29-1 【今後購入を考える投資信託の商品内容(単数回答)

／保有状況・保有種類別－投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

		全 体	極力元本が安全であるもの	安定した利回りを目標とするもの	比較的高い分配が期待できるもの	値上がりの期待が持てるもの	無回答
全 体		81	24	28	16	11	2
		100.0	29.6	34.6	19.8	13.6	2.5
保有状況別	現在保有層	46	13	17	11	4	1
		100.0	28.3	37.0	23.9	8.7	2.2
	保有経験層	13	4	3	2	3	1
		100.0	30.8	23.1	15.4	23.1	7.7
	保有未経験層	11	4	6	-	1	-
	100.0	36.4	54.5	-	9.1	-	
保有種類別	株式投資信託	34	8	13	9	3	1
	保有層	100.0	23.5	38.2	26.5	8.8	2.9
	公社債投資信託のみ保有層	3	3	-	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-	-
	その他投資信託保有層	7	2	3	2	-	-
	100.0	28.6	42.9	28.6	-	-	



②投資信託の購入意向商品(投資信託購入検討者)

今後の取引対象として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対し、今後投資信託への新規投資または追加投資(増額)を考える場合の商品の種類を尋ねたところ、「国内債券に主に投資する投資信託」(44.4%)、「国内株式に主に投資する投資信託」(30.9%)、「様々な資産に投資する投資信託」(27.2%)、「外国債券に主に投資する投資信託」(21.0%)、「外国株式に主に投資する投資信託」(19.8%)、「不動産投信に主に投資する投資信託」(17.3%)、「不動産投信(J-REIT)」(14.8%)の順となっている。これら以外の商品の購入意向は10%未満にとどまる。

時系列でみると、「国内債券に主に投資する投資信託」が前回より上昇し、前々回レベルに戻っている。「外国債券に主に投資する投資信託」は前回より大きく下がったが、「不動産投信に主に投資する投資信託」と「不動産投信(J-REIT)」は前回よりやや上昇した。

対象者属性別でみると、性別では(女性のデータは参考データながらも)、大きな差はみられない。

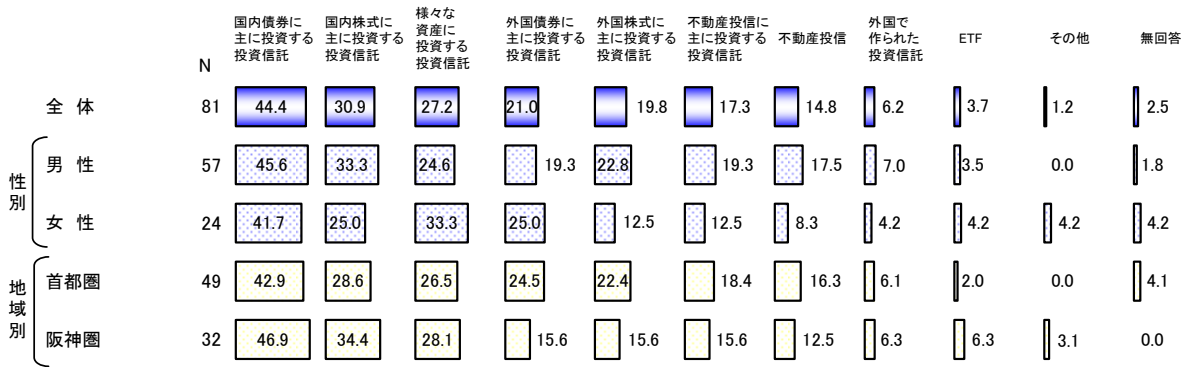
地域別でも、大きな差はみられない。

問 29-2【投資信託の購入意向商品(重複回答)】時系列—投資信託購入検討者ベース

	N	国内債券に 主に投資する 投資信託	国内株式に 主に投資する 投資信託	様々な 資産に 投資する 投資信託	外国債券に 主に投資する 投資信託	外国株式に 主に投資する 投資信託	不動産投信に 主に投資する 投資信託	不動産投信	外国で 作られた 投資信託	ETF	その他	無回答
平成25年	81	44.4	30.9	27.2	21.0	19.8	17.3	14.8	6.2	3.7	1.2	2.5
平成23年	76	32.9	30.3	27.6	38.2	21.1	9.2	5.3	7.9	7.9	1.3	1.3
平成22年	72	44.4	29.2	23.6	44.4	22.2	5.6	4.2	2.8	4.2	2.8	0.0
平成20年	107	29.9	30.8	27.1	29.9	17.8	4.7	5.6	10.3	4.7	4.7	1.9
平成19年	143	32.2	38.5	30.1	32.9	17.5	11.9	7.7	9.1	5.6	2.8	0.0

問 29-2 【投資信託の購入意向商品(重複回答)／対象者属性別—投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(上段:N)(下段:%)

	全体	国内債券に主に投資する投資信託	国内株式に主に投資する投資信託	様々な資産に投資する投資信託	外国債券に主に投資する投資信託	外国株式に主に投資する投資信託	不動産投資に主に投資する投資信託	不動産投資	外国で作られた投資信託	ETF	その他	無回答	
全体	81	36	25	22	17	16	14	12	5	3	1	2	
	100.0	44.4	30.9	27.2	21.0	19.8	17.3	14.8	6.2	3.7	1.2	2.5	
年代別	20代	7	2	1	-	4	3	1	-	-	-	1	-
		100.0	28.6	14.3	-	57.1	42.9	14.3	-	-	-	14.3	-
	30代	12	5	6	2	-	1	2	3	1	3	-	-
		100.0	41.7	50.0	16.7	-	8.3	16.7	25.0	8.3	25.0	-	-
	40代	13	4	2	5	3	4	4	3	1	-	-	1
		100.0	30.8	15.4	38.5	23.1	30.8	30.8	23.1	7.7	-	-	7.7
	50代	21	8	7	9	7	5	5	2	3	-	-	-
	100.0	38.1	33.3	42.9	33.3	23.8	23.8	9.5	14.3	-	-	-	
60代	19	11	5	4	3	3	-	1	-	-	-	1	
	100.0	57.9	26.3	21.1	15.8	15.8	-	5.3	-	-	-	5.3	
70歳以上	9	6	4	2	-	-	2	2	-	-	-	-	
	100.0	66.7	44.4	22.2	-	-	22.2	22.2	-	-	-	-	
年収別	100万円未満	17	7	3	5	4	3	1	1	1	1	1	
		100.0	41.2	17.6	29.4	23.5	17.6	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9	
	~300万円未満	18	10	4	3	7	3	4	1	2	-	-	
		100.0	55.6	22.2	16.7	38.9	16.7	22.2	5.6	11.1	-	-	
	~500万円未満	11	5	6	3	-	1	-	2	-	1	1	
		100.0	45.5	54.5	27.3	-	9.1	-	18.2	-	9.1	-	
	~800万円未満	13	7	5	4	-	-	4	4	-	1	-	
	100.0	53.8	38.5	30.8	-	-	30.8	30.8	-	7.7	-		
~1000万円未満	12	7	5	1	5	3	4	3	1	-	-		
	100.0	58.3	41.7	8.3	41.7	25.0	33.3	25.0	8.3	-	-		
1000万円以上	5	-	2	4	1	3	1	-	1	-	-		
	100.0	-	40.0	80.0	20.0	60.0	20.0	-	20.0	-	-		

問 29-2 【投資信託の購入意向商品(重複回答)／保有状況・保有種類別

—投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全体	国内債券に主に投資する投資信託	国内株式に主に投資する投資信託	様々な資産に投資する投資信託	外国債券に主に投資する投資信託	外国株式に主に投資する投資信託	不動産投資に主に投資する投資信託	不動産投資	外国で作られた投資信託	ETF	その他	無回答
全体	81	36	25	22	17	16	14	12	5	3	1	2
	100.0	44.4	30.9	27.2	21.0	19.8	17.3	14.8	6.2	3.7	1.2	2.5
保有状況別	現在保有層	46	16	13	17	10	9	10	8	4	-	1
		100.0	34.8	28.3	37.0	21.7	19.6	21.7	17.4	8.7	-	2.2
	保有経験層	13	5	4	3	3	1	3	2	1	-	1
		100.0	38.5	30.8	23.1	23.1	7.7	23.1	15.4	7.7	-	7.7
	保有未経験・購入意向層	11	9	5	1	2	3	-	-	-	1	1
	100.0	81.8	45.5	9.1	18.2	27.3	-	-	-	9.1	9.1	
保有未経験・非購入意向層	11	6	3	1	2	3	1	2	-	1	-	
	100.0	54.5	27.3	9.1	18.2	27.3	9.1	18.2	-	9.1	-	
保有種類別	株式投資信託 保有層	34	12	11	13	6	8	6	7	1	-	1
		100.0	35.3	32.4	38.2	17.6	23.5	17.6	20.6	2.9	-	2.9
	公社債投資信託のみ保有層	3	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-
		100.0	66.7	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-
その他投資信託 保有層	7	2	-	4	3	1	2	-	3	-	-	
	100.0	28.6	-	57.1	42.9	14.3	28.6	-	42.9	-	-	

### ③投資信託の情報取得に利用したい方法(投資信託購入検討者)

今後の取引対象として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対し、投資信託についての情報を得るのに利用したい方法を尋ねたところ、「インターネットで調べる」(59.3%)と「証券会社等で説明を受け資料請求」(51.9%)の2項目が特に高い。次いで「新聞・雑誌・テレビ等を見たり聞いたりする」(29.6%)が高いが、他の方法は10%に満たない。

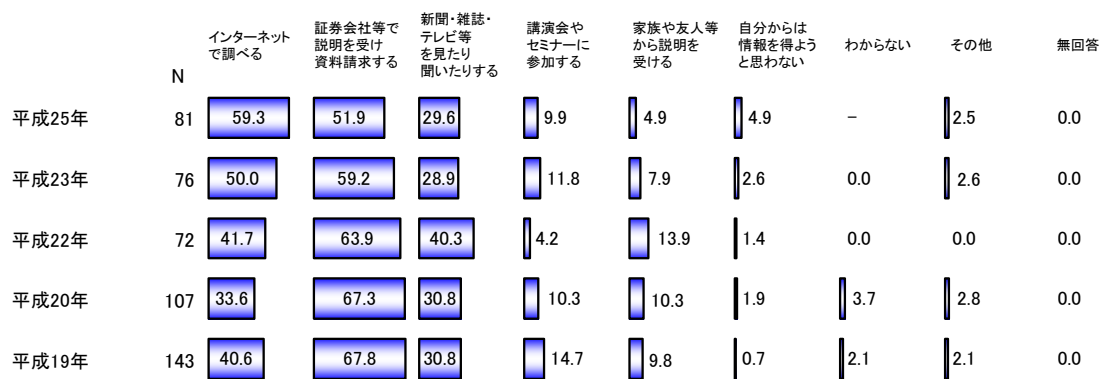
時系列でみると、「インターネットで調べる」は平成20年以降上昇傾向が続くのにに対し、「証券会社等で説明を受け資料請求」は下降傾向が続き、今回初めて「インターネットで調べる」の方が高くなった。

対象者属性別にみると、性別では(女性のデータは参考値ながらも)、女性は「家族や友人等から説明を受ける」がみられるのに対し、男性ではこれを希望する人はみられない。

地域別では、阪神圏は首都圏に比べ「新聞・雑誌・テレビ等を見たり聞いたりする」が高い。

### 問 29-3【投資信託の情報取得に利用したい方法(重複回答)】

／時系列－投資信託購入検討者ベース】

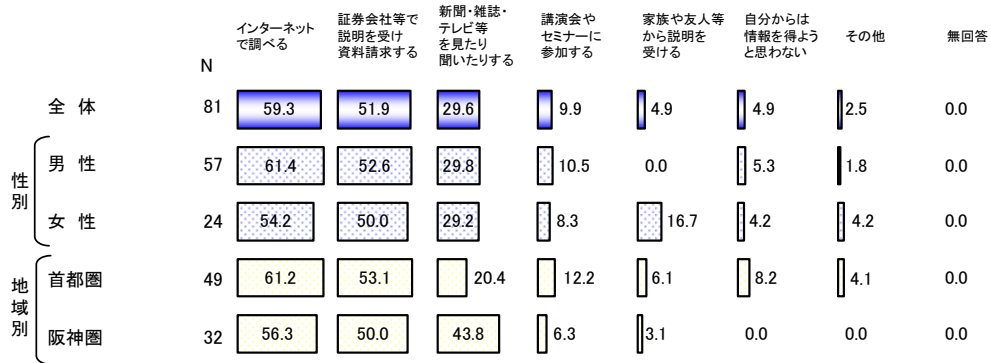


※ 平成25年より「わからない」を削除。

問 29-3 【投資信託の情報取得に利用したい方法(重複回答)】

／対象者属性別－投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(上段:N)(下段:%)

	全体	インターネットで調べる	証券会社等で説明を受け資料請求する	新聞・雑誌・テレビ等を見たり聞いたりする	講演会やセミナーに参加する	家族や友人等から説明を受ける	自分からは情報を得ようと思わない	その他	無回答
全体	81 100.0	48 59.3	42 51.9	24 29.6	9.9 9.9	4.9 4.9	4.9 4.9	2.5 2.5	0.0 0.0
年代別									
20代	7 100.0	5 71.4	2 28.6	1 14.3	2 28.6	1 14.3	1 14.3	-	-
30代	12 100.0	12 100.0	5 41.7	2 16.7	-	-	-	1 8.3	-
40代	13 100.0	8 61.5	8 61.5	5 38.5	2 15.4	-	-	-	-
50代	21 100.0	14 66.7	13 61.9	5 23.8	2 9.5	2 9.5	1 4.8	-	-
60代	19 100.0	8 42.1	10 52.6	5 26.3	1 5.3	1 5.3	2 10.5	-	-
70歳以上	9 100.0	1 11.1	4 44.4	6 66.7	1 11.1	-	-	1 11.1	-
年収別									
100万円未満	17 100.0	9 52.9	6 35.3	4 23.5	2 11.8	1 5.9	2 11.8	1 5.9	-
～300万円未満	18 100.0	10 55.6	8 44.4	7 38.9	2 11.1	2 11.1	1 5.6	-	-
～500万円未満	11 100.0	8 72.7	4 36.4	4 36.4	-	1 9.1	-	-	-
～800万円未満	13 100.0	8 61.5	10 76.9	4 30.8	3 23.1	-	-	-	-
～1000万円未満	12 100.0	6 50.0	8 66.7	3 25.0	1 8.3	-	1 8.3	1 8.3	-
1000万円以上	5 100.0	3 60.0	3 60.0	2 40.0	-	-	-	-	-

問 29-3 【投資信託の情報取得に利用したい方法(重複回答)】

／保有状況・保有種類別－投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全体	インターネットで調べる	証券会社等で説明を受け資料請求する	新聞・雑誌・テレビ等を見たり聞いたりする	講演会やセミナーに参加する	家族や友人等から説明を受ける	自分からは情報を得ようと思わない	その他	無回答
全体	81 100.0	48 59.3	42 51.9	24 29.6	9.9 9.9	4.9 4.9	4.9 4.9	2.5 2.5	0.0 0.0
保有状況別									
現在保有層	46 100.0	24 52.2	27 58.7	13 28.3	5 10.9	3 6.5	1 2.2	2 4.3	-
保有経験層	13 100.0	8 61.5	6 46.2	5 38.5	-	-	1 7.7	-	-
保有未経験層	11 100.0	8 72.7	6 54.5	5 45.5	2 18.2	-	-	-	-
・購入意向層	11 100.0	8 72.7	3 27.3	1 9.1	1 9.1	1 9.1	2 18.2	-	-
・非購入意向層	11 100.0	8 72.7	3 27.3	1 9.1	1 9.1	1 9.1	2 18.2	-	-
保有種類別									
株式投資信託保有層	34 100.0	17 50.0	20 58.8	11 32.4	5 14.7	2 5.9	1 2.9	-	-
公社債投資信託のみ保有層	3 100.0	1 33.3	3 100.0	-	-	1 33.3	-	-	-
その他投資信託保有層	7 100.0	4 57.1	3 42.9	2 28.6	-	-	-	1 14.3	-

④今後新たに投資信託を購入する場所(投資信託購入検討者)

今後の取引対象として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対し、今後新たに投資信託を購入する際の場所を尋ねたところ、「証券会社の店頭（電話注文を含む）」(38.3%)と「証券会社のインターネット取引」(35.8%)と「銀行の店頭（電話注文を含む）」(34.6%)の3項目がほぼ同率で並んで高い。次いで「銀行のインターネット取引」(22.2%)が高いが、「投資信託会社（直販）」は9.9%に過ぎず、「確定拠出年金及び財形貯蓄」は4.9%にとどまる。

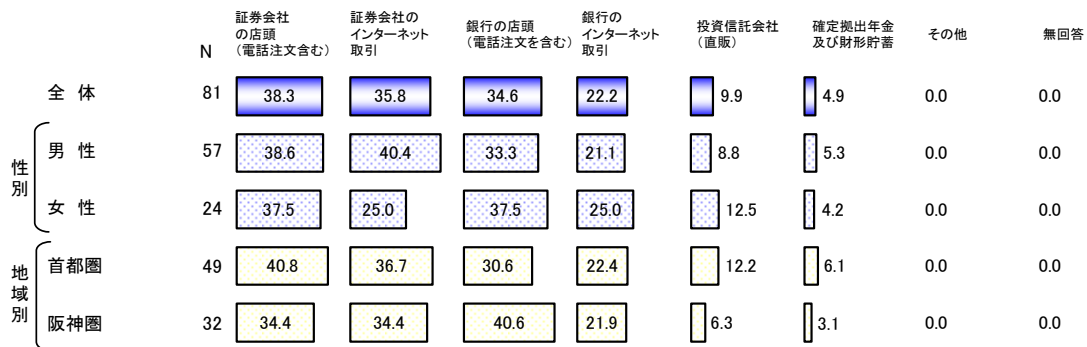
対象者属性別にみると、性別では（女性のデータは参考値ながらも）、男性は「証券会社のインターネット取引」の希望が女性より高い。

地域別では、阪神圏は首都圏に比べ「銀行の店頭（電話注文を含む）」がやや高い。

問 29-4【今後新たに投資信託を購入する場所(重複回答)】

／対象者属性別－投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(上段:N)(下段:%)

	全 体	証券会社 の店頭 (電話注文 含む)	証券会社の インターネット 取引	銀行の店頭 (電話注文 を含む)	銀行の インターネット 取引	投資信託会社 (直販)	確定拠出年金 及び財形貯蓄	その他	無回答
全 体	81 100.0	31 38.3	29 35.8	28 34.6	18 22.2	8 9.9	4 4.9	-	-
年 代 別	20代	7 100.0	4 57.1	2 28.6	2 28.6	2 28.6	1 14.3	-	-
	30代	12 100.0	1 8.3	9 75.0	1 8.3	3 25.0	2 16.7	1 8.3	-
	40代	13 100.0	4 30.8	3 23.1	5 38.5	5 38.5	1 7.7	1 7.7	-
	50代	21 100.0	8 38.1	10 47.6	7 33.3	5 23.8	3 14.3	2 9.5	-
	60代	19 100.0	9 47.4	4 21.1	8 42.1	3 15.8	1 5.3	-	-
	70歳以上	9 100.0	5 55.6	1 11.1	5 55.6	-	-	-	-
	年 収 別	100万円未満	17 100.0	7 41.2	2 11.8	8 47.1	5 29.4	2 11.8	-
～300万円未満		18 100.0	7 38.9	7 38.9	5 27.8	-	3 16.7	1 5.6	-
～500万円未満		11 100.0	3 27.3	4 36.4	2 18.2	3 27.3	2 18.2	-	-
～800万円未満		13 100.0	3 23.1	6 46.2	4 30.8	5 38.5	1 7.7	-	-
～1000万円未満		12 100.0	7 58.3	3 25.0	7 58.3	3 25.0	-	2 16.7	-
1000万円以上		5 100.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	2 40.0	-	1 20.0	-

問 29-4【今後新たに投資信託を購入する場所(重複回答)

／保有状況・保有種類別－投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全 体	証券会社 の店頭 (電話注文 含む)	証券会社 の インターネット 取引	銀行の店頭 (電話注文 を含む)	銀行の インターネット 取引	投資信託会社 (直販)	確定拠出年金 及び財形貯蓄	その他	無回答
全 体	81 100.0	31 38.3	29 35.8	28 34.6	18 22.2	8 9.9	4 4.9	-	-
保有 状況 別	現在保有層	46 100.0	19 41.3	15 32.6	16 34.8	12 26.1	3 6.5	2 4.3	-
	保有経験層	13 100.0	4 30.8	6 46.2	5 38.5	2 15.4	-	-	-
	保有未経験 ・購入意向層	11 100.0	4 36.4	5 45.5	4 36.4	3 27.3	2 18.2	1 9.1	-
	保有未経験 ・非購入意向層	11 100.0	4 36.4	3 27.3	3 27.3	1 9.1	3 27.3	1 9.1	-
	株式投資信託 保有層	34 100.0	15 44.1	13 38.2	9 26.5	10 29.4	2 5.9	2 5.9	-
保有 種類 別	公社債投資信託 のみ保有層	3 100.0	1 33.3	-	2 66.7	-	1 33.3	-	-
	その他投資信託 保有層	7 100.0	2 28.6	1 14.3	4 57.1	1 14.3	-	-	-

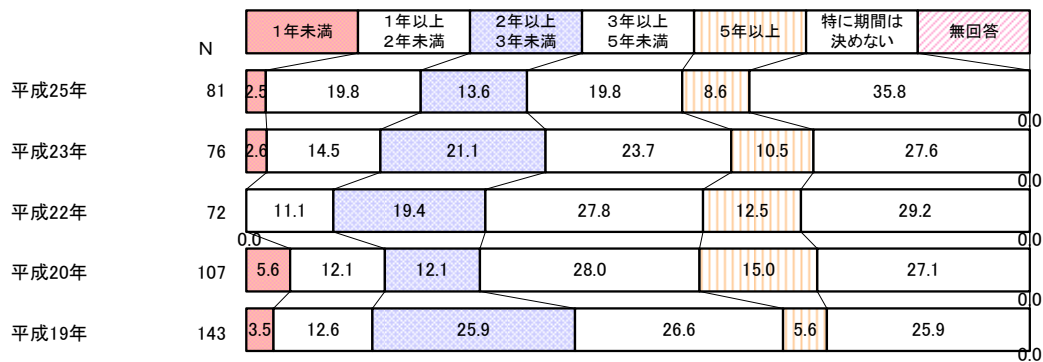
⑤投資信託の保有期間(投資信託購入検討者)

今後の取引対象として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対し、投資信託を購入する場合の保有期間を尋ねたところ、「特に期間は決めない」が35.8%と最も多くを占める。具体的な期間としては、「1年以上2年未満」と「3年以上5年未満」が同率(19.8%)であり、次いで「2年以上3年未満」(13.6%)が高い。

時系列で見ると、“2年未満”の短期を希望する率は平成22年以降、上昇傾向がみられる。地域別では、首都圏の方が阪神圏より「特に期間は決めない」比率がやや高い。

問 29-5【今後投資信託を購入する場合の希望保有期間(単数回答) /時系列

—投資信託購入検討者ベース】





問 29-5 【今後投資信託を購入する場合の希望保有期間(単数回答)

／対象者属性別－投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

		N	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	特に期間は 決めない	無回答
性別	全体	81	2.5	19.8	13.6	19.8	8.6	35.8	0.0
	男性	57	3.5	19.3	15.8	14.0	8.8	38.6	0.0
	女性	24	0.0	20.8	8.3	33.3	8.3	29.2	0.0
地域別	首都圏	49	2.0	18.4	12.2	18.4	8.2	40.8	0.0
	阪神圏	32	3.1	21.9	15.6	21.9	9.4	28.1	0.0

(上段:N)(下段:%)

	全体	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	特に期間は 決めない	無回答
全体	81	2	16	11	16	7	29	-
	100.0	2.5	19.8	13.6	19.8	8.6	35.8	-
年代別	20代	7	1	3	-	-	3	-
		100.0	14.3	42.9	-	-	42.9	-
	30代	12	-	2	4	-	1	5
		100.0	-	16.7	33.3	-	8.3	41.7
	40代	13	-	3	2	-	2	6
		100.0	-	23.1	15.4	-	15.4	46.2
	50代	21	1	1	1	7	2	9
	100.0	4.8	4.8	4.8	33.3	9.5	42.9	
60代	19	-	3	2	7	1	6	
	100.0	-	15.8	10.5	36.8	5.3	31.6	
70歳以上	9	-	4	2	2	1	-	
	100.0	-	44.4	22.2	22.2	11.1	-	
年収別	100万円未満	17	-	4	1	5	1	6
		100.0	-	23.5	5.9	29.4	5.9	35.3
	～300万円未満	18	1	3	3	4	1	6
		100.0	5.6	16.7	16.7	22.2	5.6	33.3
	～500万円未満	11	1	4	4	-	-	2
		100.0	9.1	36.4	36.4	-	-	18.2
	～800万円未満	13	-	1	1	4	1	6
	100.0	-	7.7	7.7	30.8	7.7	46.2	
～1000万円未満	12	-	2	1	2	1	6	
	100.0	-	16.7	8.3	16.7	8.3	50.0	
1000万円以上	5	-	1	1	-	2	1	
	100.0	-	20.0	20.0	-	40.0	20.0	

問 29-5 【今後投資信託を購入する場合の希望保有期間(単数回答)

／保有状況・保有種別－投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全体	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	特に期間は 決めない	無回答
全体	81	2	16	11	16	7	29	-
	100.0	2.5	19.8	13.6	19.8	8.6	35.8	-
保有状況別	現在保有層	46	1	4	5	10	5	21
		100.0	2.2	8.7	10.9	21.7	10.9	45.7
	保有経験層	13	-	6	1	3	1	2
		100.0	-	46.2	7.7	23.1	7.7	15.4
	保有未経験 ・購入意向層	11	1	2	2	3	1	2
		100.0	9.1	18.2	18.2	27.3	9.1	18.2
保有未経験 ・非購入意向層	11	-	4	3	-	-	4	
	100.0	-	36.4	27.3	-	-	36.4	
保有種別別	株式投資信託 保有層	34	1	4	5	6	4	14
		100.0	2.9	11.8	14.7	17.6	11.8	41.2
	公社債投資信託 のみ保有層	3	-	-	-	2	-	1
		100.0	-	-	-	66.7	-	33.3
その他投資信託 保有層	7	-	-	-	2	1	4	
	100.0	-	-	-	28.6	14.3	57.1	

#### (4) 資産運用に関する話題の登場頻度

資産運用について知人・友人、会社等で話題になる頻度としては、「よく話題になる」は1.8%のみ、「たまに話題になる」は19.9%であり、これらを合わせると“話題になる率”は21.7%である。一方、「話題になることはない」は67.3%と高く、「資産運用の話題は他人にしたくない」という人も10.8%みられる。

時系列で見ると、前回に比べて大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、男性は資産運用が“話題になる率”が女性より高い。

年代別では、“話題になる率”は20代では11.6%と低いが、年代が上がるほど高くなる傾向がみられ、70歳以上では30.4%にのぼる。「資産運用の話題は他人にしたくない」は60代以上で15%以上と高い。

年収別では、年収が高いほど“話題になる率”が高くなる傾向がみられ、「～1000万円未満」の層では半数近く(45.2%)を占める。

地域別では、特に差はみられない。

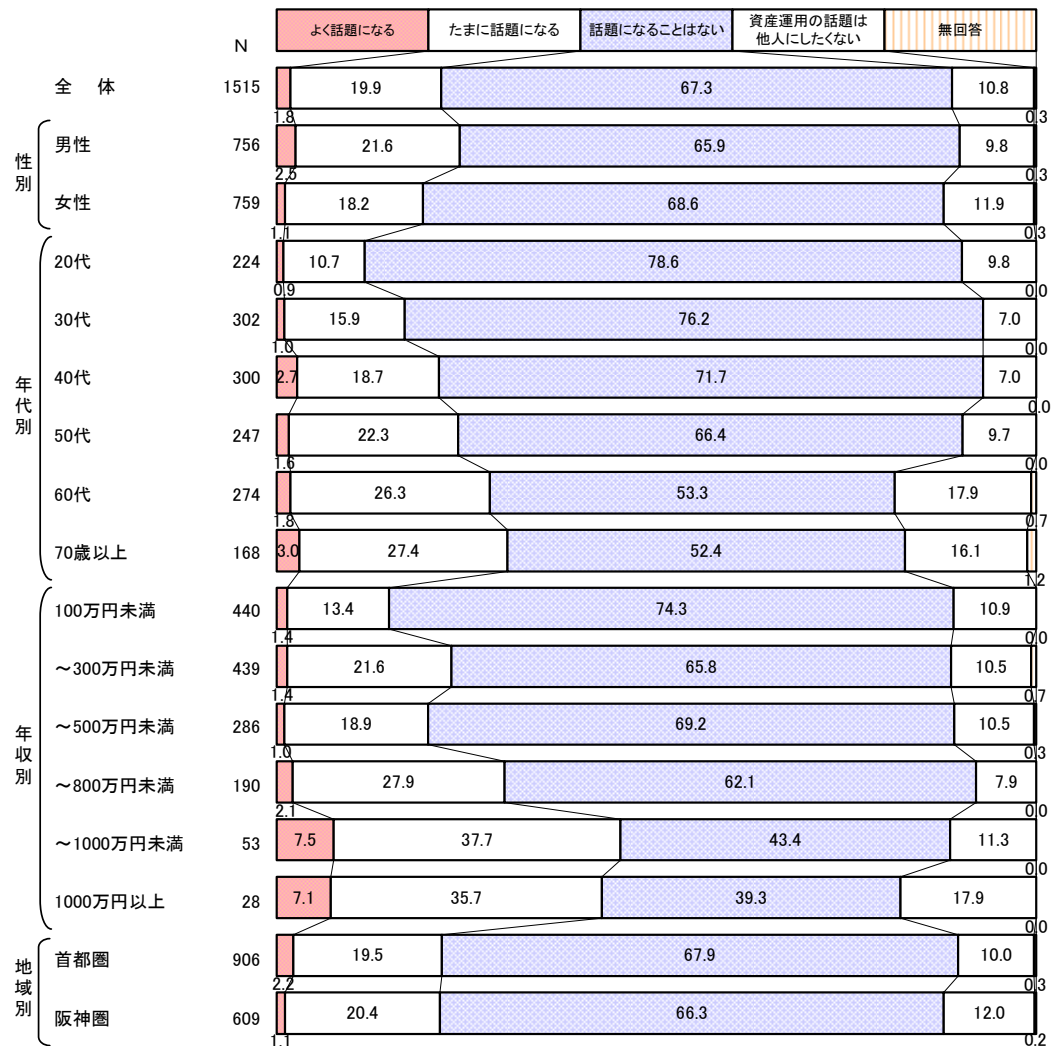
投資信託保有状況別で見ると、資産運用が“話題になる率”は現在保有層、保有経験層だけでなく、保有未経験・購入意向層も、50%弱と高い率であるが、保有未経験・非購入意向層では14.0%と低い。保有経験層では「資産運用の話題は他人にしたくない」(24.8%)が他の層(約10%)より高い。

問 26 【資産運用について友人・知人、会社等で話題になるか(単数回答)／時系列】

	N	よく話題になる	たまに話題になる	話題になることはない	資産運用の話題は他人にしたくない	無回答
平成25年	1515	1.8	19.9	67.3	10.8	0.3
平成23年	1509	2.0	19.9	68.5	9.5	0.2
平成22年	1514	1.1	25.1	62.9	10.8	0.0

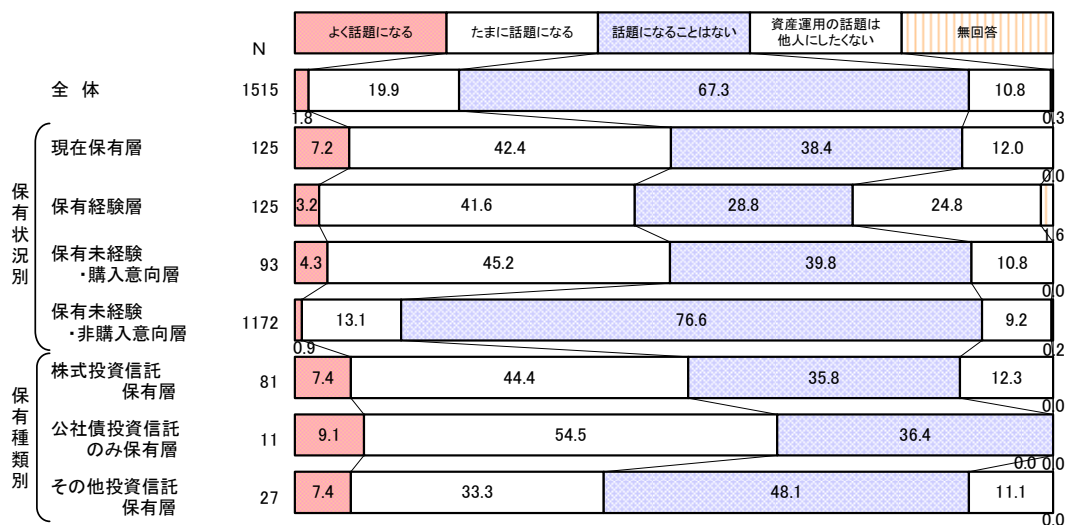
問 26 【資産運用について友人・知人、会社等で話題になるか(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 26 【資産運用について友人・知人、会社等で話題になるか／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



## (5) 金融商品や投資に関する情報源

現在、金融商品や投資に関する情報を得ているのは、「テレビ」(29.6%)と「新聞」(28.8%)が並んで高く、次いで「インターネット」が20.8%で続く。これら以外の情報源は5%台以下と低い。なお、「特に情報は得ていない」が46.7%を占めており、金融商品や投資に関して何かしらの情報収集しているのは、ほぼ半数であることがわかる。

時系列でみると、大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、男性は女性に比べ「新聞」や「インターネット」の利用率が高く、特に「インターネット」では差が大きい。女性は「特に情報は得ていない」が男性より高い。

年代別では、「新聞」利用率は年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。「インターネット」利用率は50代以下では20%台と高いが、60代以上では10%前後と低い。「テレビ」はいずれの年代にもよく利用されているが、それ以外では若年層は「インターネット」、高齢層は「新聞」というように情報源の違いが大きいことがわかる。なお、「特に情報は得ていない」は20代で59.4%と特に高い。

年収別では、「新聞」と「インターネット」の利用率はともに年収が高いほど高くなる傾向がみられる。一方、「特に情報は得ていない」率は年収が低い層ほど高い。

地域別では大きな差はみられない。

投資信託保有状況別でみると、「テレビ」の利用率には大きな差はみられないが、「新聞」利用率は現在保有層、保有経験層、保有未経験・購入意向層ともに50%前後と高いのに対し、保有未経験・非購入意向層では21.5%と低い。「インターネット」利用率は現在保有層だけでなく、保有未経験・購入意向層でも40%台と高いが、保有経験層では28.8%に下がり、保有未経験・非購入意向層では15.7%に過ぎない。現在保有層では「FPなどの専門家」(16.0%)や「セミナーや講演会」(8.0%)の利用率が他の層より高く、「マネー系の雑誌」は現在保有層、保有経験層とも10%強が利用している。なお、「特に情報は得ていない」率は保有未経験・非購入意向層では55.0%と特に高いが、現在保有層では12.0%、保有経験層と保有未経験・購入意向層ではともに20%台と低い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層はその他投資信託保有層と比べて「FPなどの専門家」が低い。

### 問 37 【金融商品や投資に関する情報源(重複回答)／時系列】

	N	テレビ	新聞	インターネット	クテコミ	マネー系の雑誌	FPなどの専門家	SNS	ラジオ	セミナーや講演会	その他の雑誌	その他	特に情報は得ていない	無回答
平成25年	1515	29.6	28.8	20.8	5.3	3.9	2.4	1.8	1.4	1.2	0.9	2.2	46.7	0.1
平成23年	1509	26.1	27.0	20.2	6.2	3.4	2.4	-	1.3	1.0	0.7	2.4	50.1	0.3
平成22年	1514	30.0	32.0	17.1	6.0	3.3	1.9	-	1.5	1.5	0.8	2.3	48.2	0.1

※ 平成25年より「SNS」を追加。

問 37 【金融商品や投資に関する情報源(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

	N	テレビ	新聞	インターネット	クチコミ	マネー系の雑誌	FPなどの専門家	SNS	ラジオ	セミナーや講演会	その他の雑誌	その他	特に情報は得ていない	無回答
全体	1515	29.6	28.8	20.8	5.3	3.9	2.4	1.8	1.4	1.2	0.9	2.2	46.7	0.1
性別														
男性	756	28.6	32.5	28.6	5.7	5.4	1.7	1.9	1.9	1.6	0.9	1.7	41.7	0.3
女性	759	30.7	25.2	13.0	4.9	2.4	3.0	1.7	0.9	0.8	0.9	2.8	51.8	0.0
年代別														
20代	224	27.7	11.6	21.9	4.5	2.7	0.0	4.5	0.4	0.4	0.4	1.3	59.4	0.0
30代	302	29.1	17.2	27.8	5.3	4.3	2.6	2.0	1.3	0.3	0.3	1.3	48.0	0.3
40代	300	30.3	29.3	23.0	6.0	4.3	2.7	1.0	0.7	1.0	0.7	1.7	45.3	0.0
50代	247	30.4	36.4	26.7	5.7	4.9	2.8	2.0	2.0	0.8	2.0	1.6	39.3	0.0
60代	274	27.7	39.8	13.1	5.1	2.9	2.9	0.4	2.2	2.2	1.5	3.3	46.0	0.0
70歳以上	168	33.9	42.9	6.5	4.8	4.2	3.0	1.2	1.8	3.0	0.6	5.4	42.3	0.6
年収別														
100万円未満	440	30.2	24.3	15.9	3.4	1.8	2.0	1.6	1.4	0.2	0.9	3.2	54.1	0.0
～300万円未満	439	30.1	24.6	14.8	6.8	2.7	1.6	2.1	0.9	0.5	0.7	1.4	49.7	0.0
～500万円未満	286	30.1	30.1	24.8	3.8	5.6	3.1	1.7	2.1	1.7	0.7	2.4	45.1	0.3
～800万円未満	190	28.9	35.3	37.4	8.4	6.8	2.1	2.6	1.6	1.6	0.5	2.6	33.2	0.0
～1000万円未満	53	24.5	45.3	34.0	5.7	5.7	5.7	1.9	3.8	7.5	3.8	3.8	30.2	0.0
1000万円以上	28	14.3	60.7	46.4	10.7	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0	21.4	0.0
地域別														
首都圏	906	29.1	28.8	22.1	5.1	4.3	2.6	1.4	1.5	1.3	0.9	2.2	46.8	0.1
阪神圏	609	30.4	28.9	18.9	5.6	3.3	2.0	2.3	1.1	1.0	1.0	2.3	46.6	0.2

問 37 【金融商品や投資に関する情報源(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

	N	テレビ	新聞	インターネット	クチコミ	マネー系の雑誌	FPなどの専門家	SNS	ラジオ	セミナーや講演会	その他の雑誌	その他	特に情報は得ていない	無回答
全体	1515	29.6	28.8	20.8	5.3	3.9	2.4	1.8	1.4	1.2	0.9	2.2	46.7	0.1
保有状況別														
現在保有層	125	31.2	58.4	40.8	6.4	11.2	16.0	2.4	0.0	8.0	2.4	8.0	12.0	0.8
保有経験層	125	32.0	53.6	28.8	7.2	12.8	2.4	2.4	2.4	4.8	3.2	4.0	20.0	0.0
保有未経験・購入意向層	93	37.6	48.4	47.3	8.6	5.4	2.2	3.2	2.2	2.2	1.1	2.2	24.7	0.0
保有未経験・非購入意向層	1172	28.6	21.5	15.7	4.7	2.0	0.9	1.5	1.4	0.0	0.5	1.5	55.0	0.1
保有種類別														
株式投資信託保有層	81	32.1	58.0	43.2	6.2	9.9	12.3	2.5	0.0	9.9	2.5	7.4	11.1	1.2
公社債投資信託のみ保有層	11	45.5	63.6	36.4	18.2	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	18.2	0.0
その他投資信託保有層	27	25.9	59.3	37.0	3.7	11.1	29.6	3.7	0.0	3.7	3.7	11.1	11.1	0.0

## (6) 最近の景気等を踏まえた資産運用やリスクについての考え方

最近の景気を踏まえた資産運用やリスクへの考え方としては、「リターンが少なくとも元本保証があるものを選びたい」が28.1%で最も高い。これ以外の意見への同意率は10%台以下と低く、「今が株式や投資信託購入のチャンスだと思う」と考える人は4.8%のみである。また、「特にない・わからない」が58.4%を占め、明確な方針を持っている人は半数に満たない。

時系列でも、大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、男性は女性より「資産はいろいろな種類の金融商品に分散させたい」が高く、女性は「特にない・わからない」が高い。

年代別では、「リターンが少なくとも元本保証があるものを選びたい」は50代が最も高い山型となっており、「資産はいろいろな種類の金融商品に分散させたい」「元本割れリスクのある商品の保有を減らしたい」はともに50～60代を中心とした層でやや高い。50代は「特にない・わからない」が最も低く、明確な方針を持っている人が多いことがわかる。一方、20代では「特にない・わからない」が71.4%と高く、若年層ほど方針を持っている人は少ない。

年収別では、「リターンが少なくとも元本保証があるものを選びたい」は「～1000万円未満」の層で49.1%と特に高く、この層では「資産はいろいろな種類の金融商品に分散させたい」も26.4%と高い。「特にない・わからない」は“300万円未満”の低年収層では約65%と高いが、年収が高いほど下がっており、高年収層ほど何らかの方針を持つ比率が高いことがわかる。

地域別では大きな差はみられない。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層は「リターンが少なくとも元本保証があるものを選びたい」だけでなく、「資産はいろいろな種類の金融商品に分散させたい」や「元本割れリスクのある商品の保有を減らしたい」もほぼ同率(40%前後)と高く、「投信は長期保有なので景気等は気にしていない」(19.2%)も他の層より高い。保有経験層と保有未経験・購入意向層では「リターンが少なくとも元本保証があるものを選びたい」や「今が株式や投資信託購入のチャンスだと思う」は現在保有層と同レベルと高い。ただし、保有未経験・購入意向層は保有経験層に比べ、「資産はいろいろな種類の金融商品に分散させたい」は高いが、「元本割れリスクのある商品の保有を減らしたい」は低いことから、この層は現在保有層に次いで積極的な方針を持っているとみられる。「特にない・わからない」は保有未経験・非購入意向層では69.5%と特に高く、この層では過半数が運用やリスクの方針を持っていない。

投資信託保有種類別でみると、株式投資信託保有層は、その他投資信託保有層と比べて「元本割れリスクのある商品の保有を減らしたい」が高い。

### 問 36 【最近の景気等を踏まえた資産運用やリスクについての考え方(重複回答)／時系列】

	N	リターンが 少なくとも 元本保証がある ものを選びたい	資産は いろいろな 種類の金融商品 に分散させたい	元本割れ リスクのある 商品の保有を 減らしたい	今が株式や 投資信託購入の チャンスだと思う	投信は 長期保有なので 景気等は 気にしていない	その他	特にない ・わからない	無回答
平成25年	1515	28.1	11.8	8.1	4.8	3.6	1.1	58.4	0.7
平成23年	1509	27.4	10.1	6.5	4.9	3.0	1.0	59.6	0.3
平成22年	1514	29.4	10.4	7.5	6.3	2.4	0.8	58.9	0.3

問 36 【最近の景気等を踏まえた資産運用やリスクについての考え方(重複回答)

／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	リターンが 少なくとも 元本保証がある ものを選びたい	資産は いろいろな 種類の金融商品 に分散させたい	元本割れ リスクのある 商品の保有を 減らしたい	今が株式や 投信購入の チャンスだと思う	投信は 長期保有なので 景気等は 気にしていない	その他	特にな い・わ からない	無回答
全体	1515	28.1	11.8	8.1	4.8	3.6	1.1	58.4	0.7
性別									
男性	756	29.9	15.2	8.9	6.3	4.6	1.3	52.4	0.8
女性	759	26.2	8.4	7.4	3.3	2.5	0.9	64.4	0.5
年代別									
20代	224	19.6	4.0	4.0	4.0	2.7	0.0	71.4	0.9
30代	302	25.5	9.9	3.6	3.3	2.0	2.3	62.9	0.3
40代	300	28.3	10.7	8.3	5.0	2.7	0.3	57.7	0.3
50代	247	35.6	16.2	10.5	5.3	7.3	2.0	46.2	0.8
60代	274	31.0	16.4	13.5	4.0	4.0	0.4	55.1	0.4
70歳以上	168	27.4	13.7	8.9	8.9	3.0	1.8	57.7	1.8
年収別									
100万円未満	440	26.6	7.5	7.0	3.2	2.7	1.1	64.8	0.5
～300万円未満	439	26.4	9.3	7.5	3.9	1.8	0.9	63.3	1.1
～500万円未満	286	27.3	12.2	7.3	5.2	3.8	1.7	57.0	0.7
～800万円未満	190	30.5	17.4	11.6	8.9	5.8	1.1	47.4	0.0
～1000万円未満	53	49.1	26.4	13.2	9.4	11.3	1.9	24.5	0.0
1000万円以上	28	42.9	46.4	21.4	14.3	10.7	0.0	10.7	0.0
地域別									
首都圏	906	27.7	11.3	7.8	4.6	3.5	1.3	57.8	0.8
阪神圏	609	28.6	12.6	8.5	5.1	3.6	0.8	59.3	0.5

問 36 【最近の景気等を踏まえた資産運用やリスクについての考え方(重複回答)

／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	リターンが 少なくとも 元本保証がある ものを選びたい	資産は いろいろな 種類の金融商品 に分散させたい	元本割れ リスクのある 商品の保有を 減らしたい	今が株式や 投信購入の チャンスだと思う	投信は 長期保有なので 景気等は 気にしていない	その他	特にな い・わ からない	無回答
全体	1515	28.1	11.8	8.1	4.8	3.6	1.1	58.4	0.7
保有状況別									
現在保有層	125	39.2	43.2	39.2	16.0	19.2	1.6	8.8	0.8
保有経験層	125	45.6	21.6	18.4	11.2	4.8	3.2	27.2	0.0
保有未経験 ・購入意向層	93	46.2	33.3	10.8	15.1	8.6	1.1	26.9	1.1
保有未経験 ・非購入意向層	1172	23.5	5.7	3.5	2.1	1.4	0.9	69.5	0.7
保有種類別									
株式投資信託 保有層	81	39.5	48.1	45.7	17.3	18.5	0.0	8.6	1.2
公社債投資信託 のみ保有層	11	72.7	27.3	27.3	27.3	27.3	0.0	0.0	0.0
その他投資信託 保有層	27	29.6	40.7	25.9	7.4	22.2	7.4	11.1	0.0



## 8. インターネットによる金融取引状況(全体)

### (1) インターネット利用頻度

普段のインターネットの利用頻度(ただし、仕事での利用は除く)は、「ほぼ毎日」が44.2%を占め、最も高い。一方、「パソコンや携帯・スマホは持っていない・使わない」も19.5%みられる。

時系列で見ると、前回に比べ「ほぼ毎日」利用比率が12.6ポイントと大きく上がり、「パソコンや携帯・スマホは持っていない・使わない」は逆に8.9ポイント下がった。つまり、インターネットの利用率、利用頻度ともに大きく伸びていることがわかる。

対象者属性別にみると、性別では、男性は女性に比べ「パソコンや携帯・スマホは持っていない・使わない」率が低く、使用頻度も「ほぼ毎日」が過半数(53.0%)を占め、女性(35.3%)より高い。

年代別では、パソコンの利用率は若年層ほど高い傾向がみられ、「パソコンや携帯・スマホは持っていない・使わない」率は40代以下では5%未満と低いが、50代では13.8%、60代では45.3%に急増し、70歳以上は66.7%と大半を占める。また、利用頻度も若年層ほど高く、「ほぼ毎日」の比率は20代では72.3%にのぼる。

年収別では、「パソコンや携帯・スマホは持っていない・使わない」比率は「～300万円未満」を中心とした層と「～1000万円未満」の層で高いが、これは、各層の年代別構成比の影響もあると考えられる(117ページ:【対象者年齢/対象者属性別】グラフ参照。「～300万円未満」の層では「70歳以上」が19.8%を占め、「～1000万円未満」の層では“60代以上”が22.7%を占める)。また、「ほぼ毎日」利用率は年収が高いほど高くなる傾向がみられる。

地域別では、首都圏は阪神圏に比べ、パソコン利用率、利用頻度ともに高い。

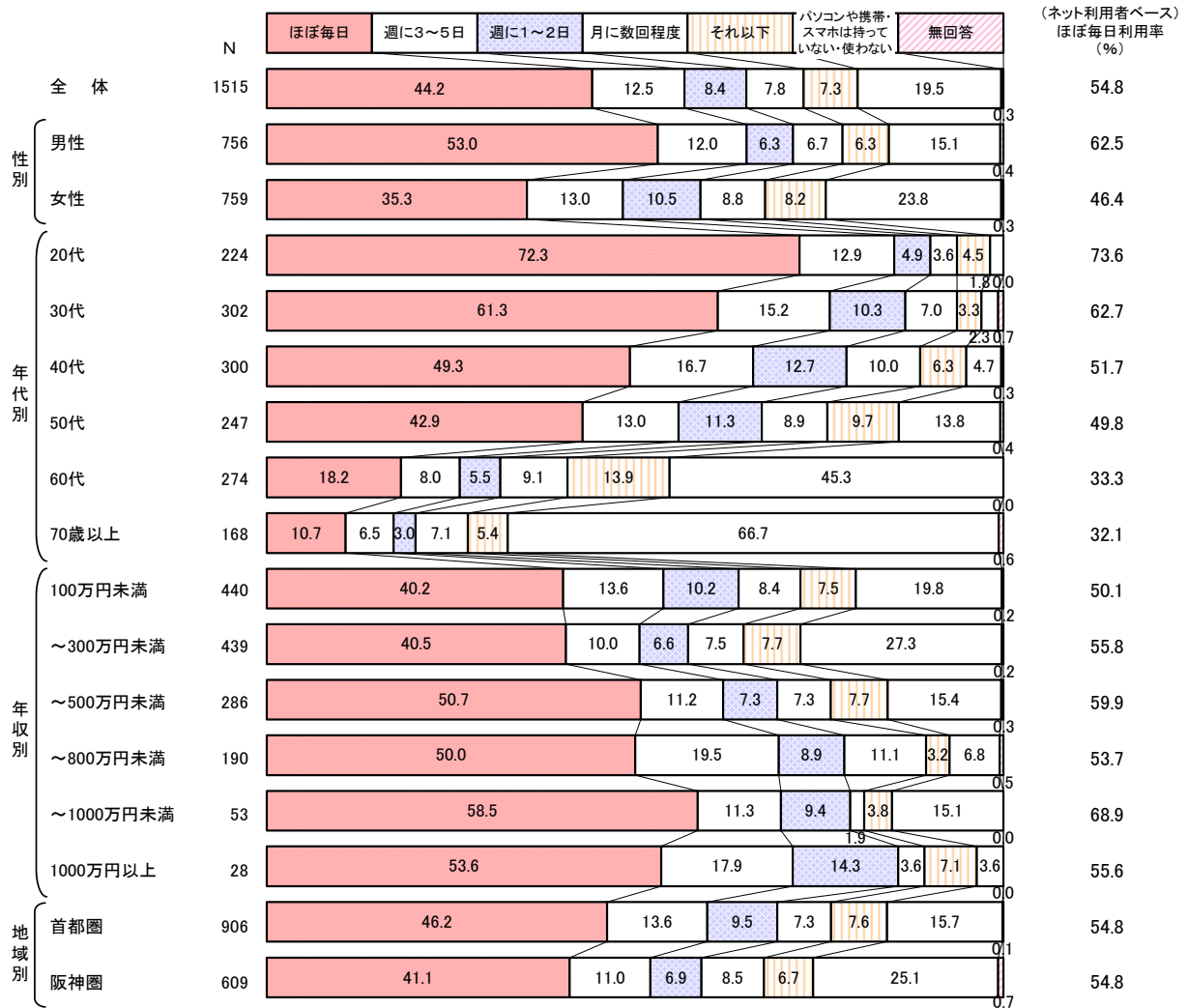
投資信託保有状況別で見ると、パソコン利用率、利用頻度ともに、現在保有層と保有未経験層の2層では大きな差はみられないが、保有経験層ではいずれも低い。各層の年齢分布をみると(117ページ:【対象者年齢/保有状況・保有種別】グラフ参照)、現在保有層、保有経験層ともに“60代以上”がほぼ半数を占めており、現在保有層は比較的高年齢層の人でも、パソコンを利用している様子が見える。

問38【インターネット利用頻度(単数回答)/時系列】

	N	ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	月に数回程度	それ以下	パソコンや携帯・スマホは持っていない・使わない	無回答	
平成25年	1515	44.2			12.5	8.4	7.8	7.3	19.5
平成23年	1509	31.6		13.7	11.1	10.1	5.0		28.4
平成22年	1514	29.6		12.0	11.2	10.4	6.7		30.1

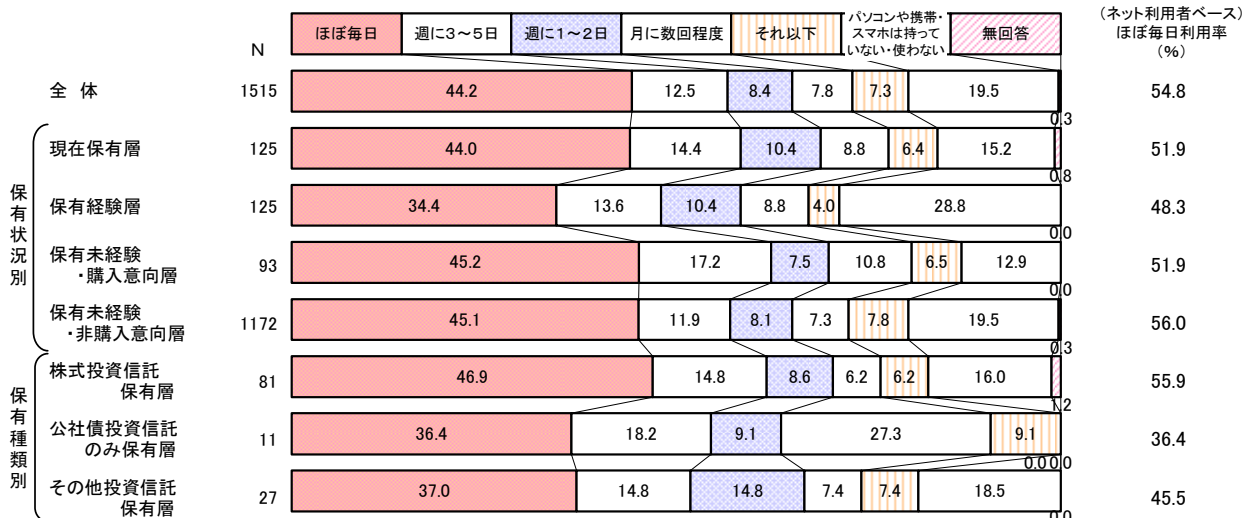
問 38 【インターネット利用頻度(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 38 【インターネット利用頻度(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



## (2) インターネットによる金融取引経験

インターネットの利用の有無に関わらず全員に、インターネットを通じた金融取引経験を尋ねると、「ある」＝取引経験率は 14.7%であり、「利用経験はないが、今後行いたい」＝取引意向率は 5.7%みられる。

時系列でも、特に大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、男性の方が取引経験率が高い。

年代別では、取引経験率は 30 代で 23.5%と最も高く、40～50 代も約 20%みられるが、それ以上の年代では年代が上がるにつれ下がる傾向となっている。取引意向率も 20～50 代で 6～10%みられるが、60 代以上では 2%ほどに過ぎない。

年収別でみると、取引経験率は年収が高いほど高くなる傾向がみられ、「～800 万円未満」と「～1000 万円未満」の層では約 25%にのぼる。取引意向率には大きな差はみられない。

地域別では、取引経験率、取引意向率ともに大きな差はみられない。

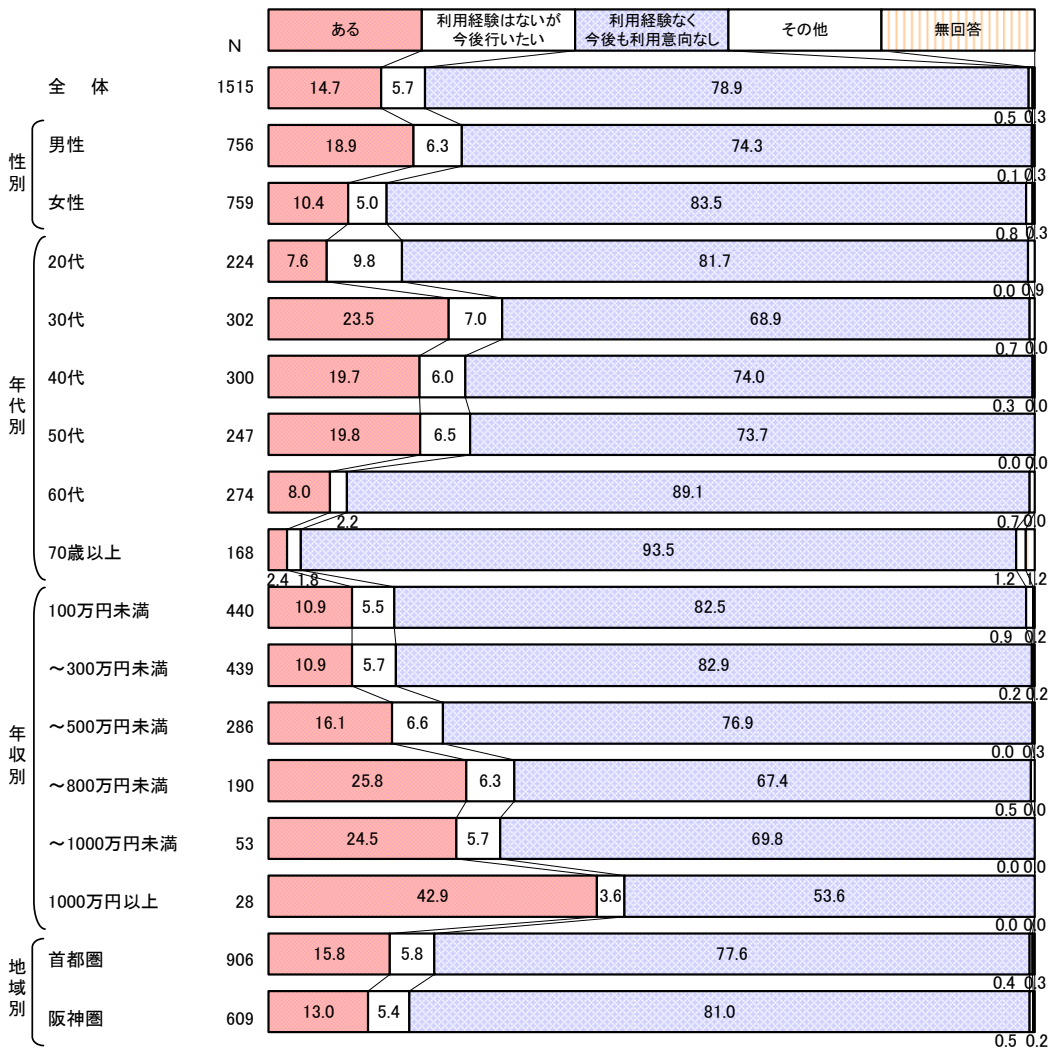
投資信託保有状況別にみると、取引経験率は現在保有層が 37.6%で最も高く、次いで保有経験層と保有未経験・購入意向層がともに 20%台で並び、保有未経験・非購入意向層は 10.8%で最も低い。取引意向率は保有未経験・購入意向層が 22.6%と特に高く、他層を大きく上回っている。

問 39 【インターネットによる金融取引経験(単数回答)／時系列】

	N	ある	利用経験はないが 今後行いたい	利用経験なく 今後も利用意向なし	その他	無回答
平成25年	1515	14.7	5.7	78.9		0.5
平成23年	1509	14.0	5.4	80.2		0.0
平成22年	1514	11.0	6.3	81.3		0.0
平成20年	1507	11.4	8.1	80.0		0.3
平成19年	1517	11.0	8.9	79.4		0.1

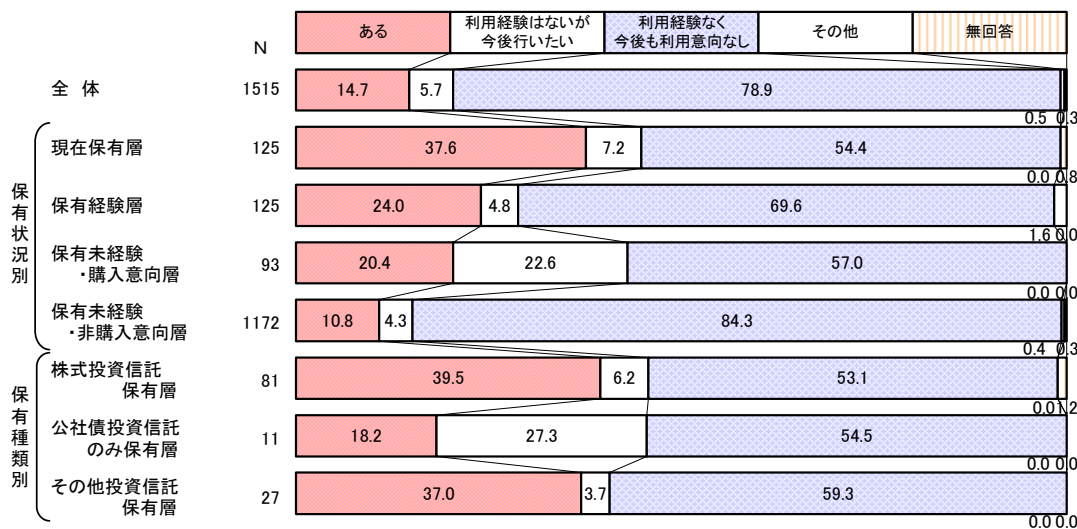
問 39 【インターネットによる金融取引経験(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 39 【インターネットによる金融取引経験(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



### (3) インターネットによる取引経験のある金融商品(インターネット取引経験者)

インターネットによる金融取引経験がある人に対し、インターネットで取引を行ったことがある金融商品について尋ねたところ、「普通預貯金」が60.8%で最も高く、次いで「株式・国債・公債・社債・転換社債」(40.5%)、「定期預金・外貨預金」(22.5%)、「損保・生保」(19.8%)の順となっており、「投資信託」と「外国為替証拠金取引(FX)」はともに約10%にとどまる。

時系列でみると、「株式・国債・公債・社債・転換社債」は前回9.8ポイント下がったが、今回は5.4ポイント上がった。

対象者属性別でみると、性別では、男性は女性に比べ「株式・国債・公債・社債・転換社債」「損保・生保」「外国為替証拠金取引(FX)」のインターネット取引経験率が高い。女性では「普通預貯金」が男性より高い。

年代別では、50代は30~40代に比べ「普通預貯金」のインターネット取引経験率は低いが、「株式・国債・公債・社債・転換社債」と「投資信託」は高い。また、「損保・生保」の経験率は40~50代の方が30代より高く、50代は多様な取引をインターネットで行っている様子が見えらる。

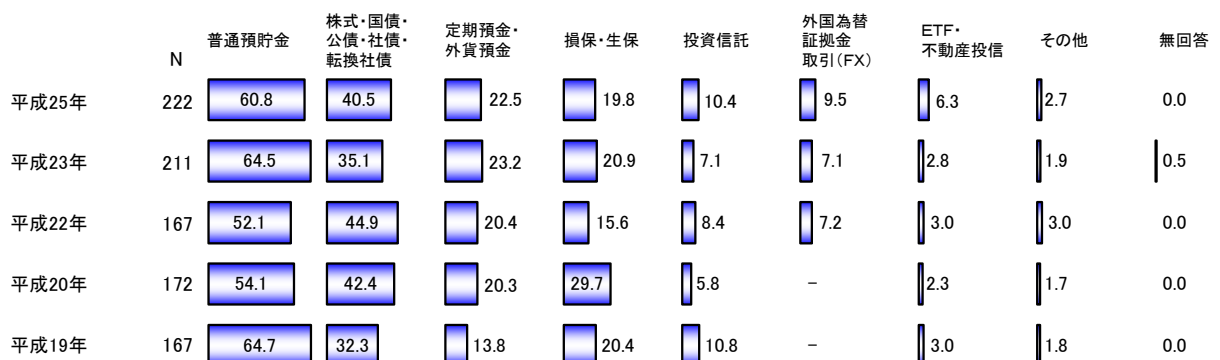
年収別では、「~800万円未満」の層はそれ以下の年収層に比べ「普通預貯金」と「定期預金・外貨預金」の経験率は低いが、「外国為替証拠金取引(FX)」はやや高い。「100万円未満」の低年収層では「株式・国債・公債・社債・転換社債」がそれ以上の年収層より低い。

地域別では、首都圏は阪神圏に比べ「株式・国債・公債・社債・転換社債」と「損保・生保」が高い。

投資信託保有状況別でみると、「株式・国債・公債・社債・転換社債」のインターネット取引経験率は現在保有層と保有経験層では60%台と高く、「投資信託」と「ETF・不動産投信」も現在保有層は他の層に比べて高い。一方、「普通預貯金」の経験率は現在保有層と保有経験層(45%前後)は保有未経験の2層(70%前後)に比べて低い。保有未経験・購入意向層は「定期預金・外貨預金」が現在保有層とほぼ同率(約35%)と高い。

#### 問 39-1【インターネット取引経験のある金融商品(重複回答)

／時系列ーインターネット取引経験者ベース】

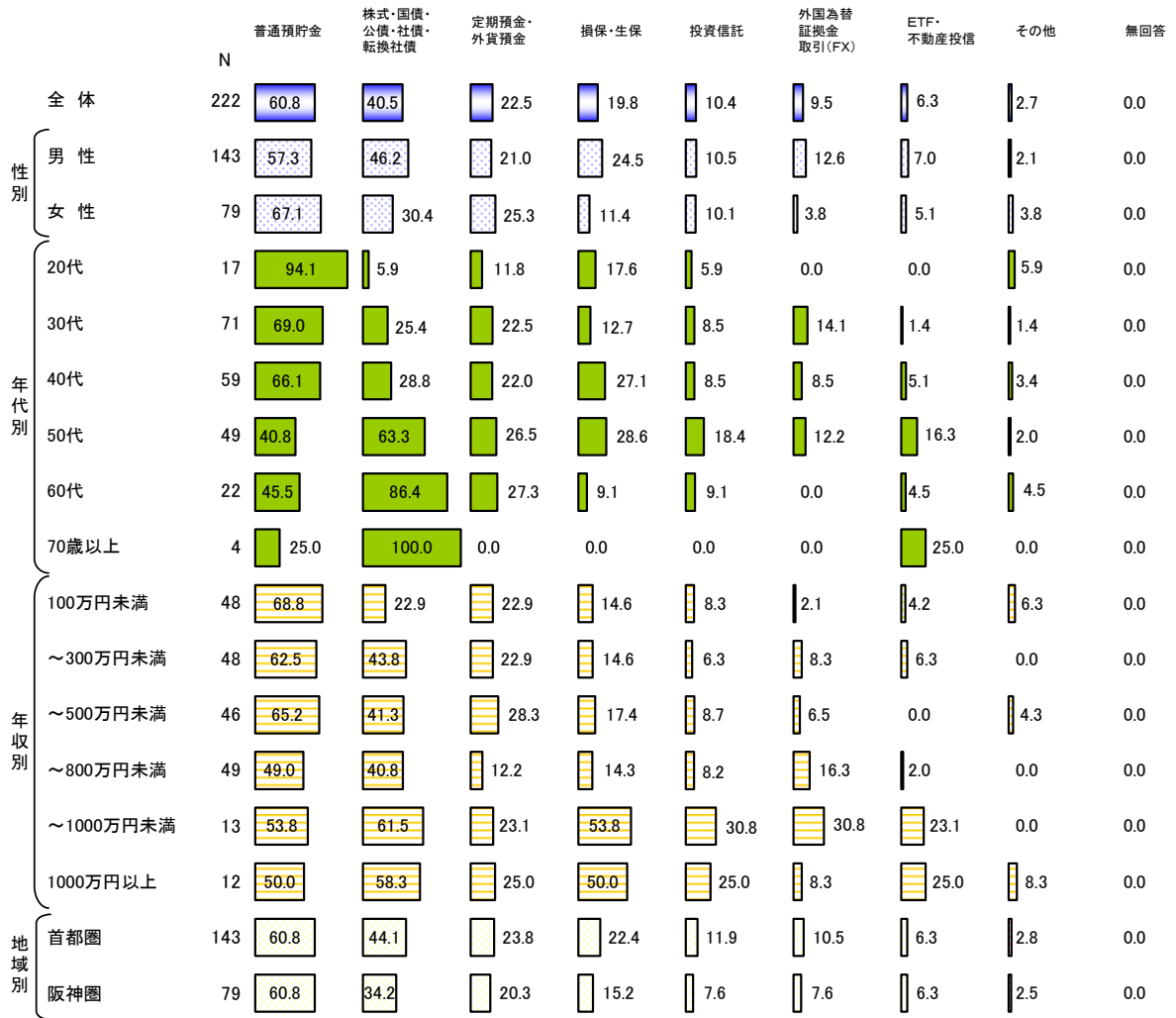


※ 平成22年から「外国為替証拠金取引(FX)」を追加。

問 39-1 【インターネット取引経験のある金融商品(重複回答)

／対象者属性別ーインターネット取引経験者ベース

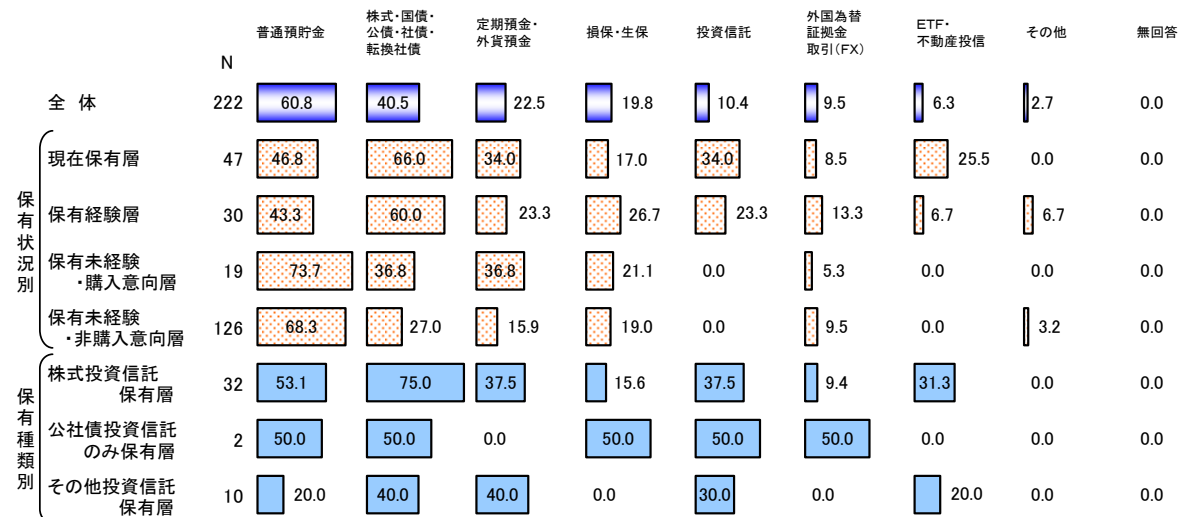
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 39-1 【インターネットによる取引経験のある金融商品(重複回答)

／保有状況・保有種類別ーインターネット取引経験者ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(4) インターネットによる取引意向のある金融商品(インターネット取引未経験者のうち取引意向者)

インターネットによる金融取引の経験はないが、今後の利用意向がある人に対し、インターネットで取引を行ってみたい金融商品を探ねたところ、「普通預貯金」が52.3%で最も高く、「株式・国債・公債・社債・転換社債」も39.5%みられる。次いで、「損保・生保」(22.1%)と「定期預金・外貨預金」(20.9%)がほぼ同率で並び、「外国為替証拠金取引(FX)」(12.8%)が続くが、「投資信託」と「ETF・不動産投信」はともに4.7%にとどまる。

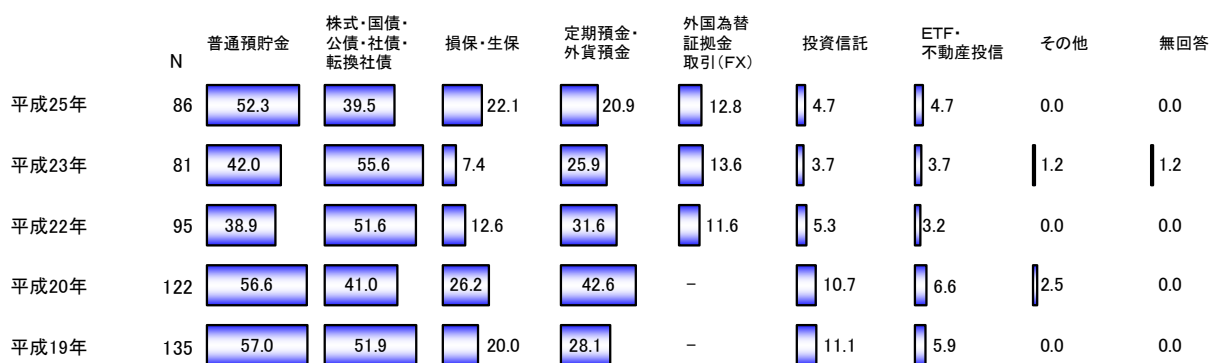
時系列でみると、「普通預貯金」は平成22年以降上昇傾向、「定期預金・外貨預金」は平成20年以降下降傾向がみられる。また、前回と比べて「株式・国債・公債・社債・転換社債」は下がったのに対し、「損保・生保」は上がった。

対象者属性別にみると、性別では、男性は女性に比べ「株式・国債・公債・社債・転換社債」の利用意向率が高い。

地域別では、首都圏は阪神圏に比べ「定期預金・外貨預金」の利用意向率が高く、阪神圏は「普通預貯金」と「外国為替証拠金取引(FX)」の利用意向率が首都圏よりやや高い。

問 39-2 【インターネットによる取引意向のある金融商品(重複回答)

／時系列－インターネット取引未経験&取引意向者ベース】



※ 平成22年から「外国為替証拠金取引(FX)」を追加。



問 39-2【インターネットによる取引意向のある金融商品(重複回答)

／対象者属性別ーインターネット取引未経験&取引意向者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全 体	普通預貯金	株式・国債 ・公債・社債 ・転換社債	損保・生保	定期預金 ・外貨預金	外国為替 証拠金取引 (FX)	ETF・ 不動産投信	投資信託	その他	無回答
全 体	86 100.0	45 52.3	34 39.5	19 22.1	18 20.9	11 12.8	4 4.7	4 4.7	-	-
性別	男性	48 100.0	24 50.0	23 47.9	9 18.8	11 22.9	6 12.5	3 6.3	3 6.3	-
	女性	38 100.0	21 55.3	11 28.9	10 26.3	7 18.4	5 13.2	1 2.6	1 2.6	-
年代別	20代	22 100.0	11 50.0	7 31.8	3 13.6	6 27.3	6 27.3	2 9.1	1 4.5	-
	30代	21 100.0	12 57.1	8 38.1	5 23.8	5 23.8	1 4.8	-	-	-
	40代	18 100.0	11 61.1	6 33.3	6 33.3	4 22.2	1 5.6	1 5.6	1 5.6	-
	50代	16 100.0	9 56.3	7 43.8	3 18.8	2 12.5	2 12.5	1 6.3	1 6.3	-
	60代	6 100.0	1 16.7	4 66.7	2 33.3	1 16.7	1 16.7	-	1 16.7	-
	70歳以上	3 100.0	1 33.3	2 66.7	-	-	-	-	-	-
	年収別	100万円未満	24 100.0	12 50.0	8 33.3	7 29.2	1 4.2	5 20.8	-	1 4.2
～300万円未満		25 100.0	12 48.0	8 32.0	4 16.0	6 24.0	2 8.0	1 4.0	2 8.0	-
～500万円未満		19 100.0	13 68.4	6 31.6	3 15.8	9 47.4	2 10.5	-	-	-
～800万円未満		12 100.0	5 41.7	8 66.7	3 25.0	2 16.7	2 16.7	2 16.7	1 8.3	-
～1000万円未満		3 100.0	2 66.7	1 33.3	1 33.3	-	-	-	-	-
1000万円以上		1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-
地域別	首都圏	53 100.0	25 47.2	23 43.4	11 20.8	15 28.3	4 7.5	4 7.5	3 5.7	-
	阪神圏	33 100.0	20 60.6	11 33.3	8 24.2	3 9.1	7 21.2	-	1 3.0	-

問 39-2【インターネットによる取引意向のある金融商品(重複回答)

／保有状況別ーインターネット取引未経験&取引意向者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全 体	普通預貯金	株式・国債 ・公債・社債 ・転換社債	損保・生保	定期預金 ・外貨預金	外国為替 証拠金取引 (FX)	ETF・ 不動産投信	投資信託	その他	無回答
全 体	86 100.0	45 52.3	34 39.5	19 22.1	18 20.9	11 12.8	4 4.7	4 4.7	-	-
保有状況別	現在保有層	9 100.0	2 22.2	5 55.6	2 22.2	1 11.1	-	1 11.1	2 22.2	-
	保有経験層	6 100.0	3 50.0	4 66.7	2 33.3	-	1 16.7	1 16.7	1 16.7	-
	保有未経験 ・購入意向層	21 100.0	6 28.6	14 66.7	4 19.0	4 19.0	5 23.8	1 4.8	1 4.8	-
	保有未経験 ・非購入意向層	50 100.0	34 68.0	11 22.0	11 22.0	13 26.0	5 10.0	1 2.0	-	-
	株式投資信託 保有層	5 100.0	-	5 100.0	1 20.0	-	-	-	-	-
保有種類別	公社債投資信託 のみ保有層	3 100.0	2 66.7	-	-	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	-
	その他投資信託 保有層	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	-	1 100.0	-